TUMSAT-OACIS Repository - Tokyo

University of Marine Science and Technology

(東京海洋大学)

The Epitome of James Joyce's Finnegans Wake III. 4 （555. 1 ～590.30）

メタデータ	言語: jpn
	出版者:
	公開日: 2017-02-28
	キーワード (Ja):
	キーワード (En):
	作成者: 大島, 由紀夫
	メールアドレス:
	所属:
URL	https://oacis.repo.nii.ac.jp/records/1380

Journal of the Tokyo University of Marine Science and Technology, Vol. 13, pp. 45-64, 2017

［資料］

ジェイムズ・ジョイス『フィネガンズ・ウェイク』第3部第4章の概要（555.1 ～590.30）

大島　由紀夫*

（Accepted October 25, 2016）

The Epitome of James Joyce's *Finnegans Wake* III. 4（555. 1 ～590.30）

Yukio OSHIMA

Abstract: I translated into Japanese James Joyce's *Finnegans Wake* III, 4（555.1～590.30）. In some parts I translated it word for word, but in other parts I just gave the gist of the sentences or the paragraphs. So in naming the title I used the word ‘epitome,’ not ‘translation.’ The epitome mainly treats Four Masters’ observation and view on Shem, Shaun, Issy, and their parents HCE and ALP.

Key words: *Finnegans Wake*, Part III, 4, epitome

あれは何だったのか。正体は霧だったのか。あまりによく寝てしまった。寝かせておいてくれたのだ。

しかし本当に今はいつなのか。どれほどの時代に我々は生きているのか言ってくれ。そうなのか。

良き昔の、シラミの多い、過ぎ去ったあの頃の日々の、毎夜毎夜のことを言うとしようか。誰のことについて話そうか。子供の番人たちは双子のベッドを気にかけていた。そこに彼らは立っていた。長たちが。４人全員が。４日熱が起こる状態の中で。大騒ぎして暴れ飛び跳ねる者【ロバ】をつれた、バレアレス諸島の主要4島、マジョルカ島、ミノルカ島、イビザ島、フォルメンテラ島の者たちは。4晩と4晩の間。女の子のいる部屋の４隅で。この古のバレイオロゴス家の者たちは、このヘンリー２世の４人の廷臣どもエスカー、ニューキャッスル、サガード、クラムリンは、コープ【高位聖職者が着る絹の長いマント】を身につけた４人組は、「疾風の歩き手」であるロバと、そのロバの哀れっぽい年寄り染みた死に損ないの大酒飲みが発するような咳とを面白おかしく扱いながら。ロバよ、ダブリンへの道を教えてくれ。まっすぐ俺のあとについてこい、そうすればダブリンに行ける、エスカー、ニューキャッスル、サガード、クラムリンよ。そして彼らは耳をすませていた。それ故良い子のケヴィン・メアリーが（大事大事に育てられ、大きくなったらすぐに彼は少年合唱団の団長になるつもりだった）、楽しそうにクリームの滴りとオレンジカスタードと投げ渡されたキャベツを食べる夢を見つつ、アイルランド人としての微笑みを浮かべているのを見て彼らは嬉しく思った。また悪い子のジェリー・ゴドルフィングの（彼はあらゆる病院での治療が終わったらすぐさま、急いでホームレスの夜のたまり場にいる下司たちの親分になろうとしていた）、メタノールを混ぜた酒や、胸を悪くし憂鬱な気分にさせる酒粕や、気持ちの悪くなる微粒状のダイオウを、顔に皺を寄せ無駄に食べたり飲んだりしている夢を見てしかめ面をしている寝顔に、彼らはぞっとした。

（556）一方、静まり返った夜毎夜毎、あどけないイザベラは（彼女はこれから毎日顔を赤らめることになるであろう。ある日曜日、彼女が成長して聖なるひいらぎ、聖なる象牙となった時に。また無垢な修道女用フードをまとい、20歳にもならずに、ヴェールをとって、聖職推薦による美しい尼僧シスター・イザベルとなった時に。そして次の日曜日のミカエル祭に、美しきサマリア人である彼女が、修道女の聖イザベルとなって、まだ美貌を保ち、まだ10代で、カフスをしっかりと止め、桃のように見えている時に。でも安息日やクリスマスやイースターの朝に、美しきやもめのマダム・イザが花の冠をかぶり、18歳の素晴らしい容貌

*　Professor emeritus of Tokyo University of Marine Science and Technology, 2-1-6 Etchujima, Koto-ku, Tokyo 135-8533, Japan
（東京海洋大学名誉教授）

の未亡人となって、男子が着るようなオレンジの花模様の寡婦のためのヴェールのついた長い黒の服を着ると、大変地味だけれども胸が豊かに見える時に）というのも彼女は彼らが愛する唯一の娘だったからだ。あなた方の賞賛の的となる女王然とした真珠のような子であり、私の思うに、初めて我々が会った晩、いつも決まった寝方であろう寝方をしていたが故に彼らは愛したのだ。私の心のいとしき人は、寝室の簡易ベッドの中で、アプリコートのパジャマを着て、無為に寝ているのではなかった。スモモ風キャンディー味の寝息を立て、寄せ切れの掛け布団とデュエットをしていた。本当のことを言えば、イザベラはとても可愛く、大人しく、すべての木が野生の原始林のような目と、早咲きのバラの色合いの髪の毛をもち、苔とジンチョウゲの雫のような藤色の服を着ていた。この樹木の子は白いいばらの下で、幸福を失った木の葉のように、風に吹かれる静まり返った花のように、とても静かに横たわっていた。すぐさままた彼女は、私を勝ち取りたく思うだろう、私に求婚したく思うだろう、私と結婚したく思うだろう、そしてアア、私にうんざりするだろう！今は深く眠って横たわっている。

一方その夜自分の荷馬車に乗って、【4博士と子供たちの】仲立ち役であり、見張り役のハヴルック【サッカーソン？】は、立ち騒ぐ波の向こうから列車の運行のように時間きっかりに、車のがたがた揺れる道路に生えた、人々の通行を阻む巨大な草の中を、喉を潤し嘘八百を広めるために、酒瓶を穴の開いたポケットに入れて通っていた。恋人たちの落とした遺失物の取扱所にもっていくために、ヴァルプルギスの夜祭で残ったものを選り分けて。それらの中には素晴らしいものもあり、胸の悪くなるようなものもあった。双眼鏡、眼鏡、ボタン、バンド、手袋、ストッキング、赤いロ紅、酢の瓶など。

ある夜、そして次の夜も、最近の夜も、汚れた女のキャサリン【ケート】は生まれながらの彼女の部屋の寝台で、私が蓄えておいた子牛の肉を焼く夢を見ながら、眠りの心地よさに浸っていたのだが、何と、階下のドアをノックする音が大気を突き抜けてこのような時刻に聞こえてきたように思ったのだ。一体それがシュエップスのミネラルウォーターが届けられた音なのか、（557）HCE 宛ての電報をもった郵便配達人ショーンなのか、黙示録の 4 騎士【戦争、飢餓、疫病、死という人類の 4 大災害を象徴】であるノレイ、スースビー、イェーツ、ウェルクス【北、南、東、西を表す】がたてた音なのかを確かめるために下に降りて行った。そして、天におわす聖人方に栄光あれ、階段の上できしる音がし、何事かと彼女はろうそくを掲げ、栄光あれ、牛乳の壷が揺れて互いにがたがた打ち合うように互いに打ち合う膝を合わせて膝まずき、十字を切った。そして彼女はそれがあたかもハプスブルグ家の亡霊であるかのような、老いた山岳に住むガンダー・オテュール王の亡霊であるかのような、あるいは彼【HCE】のぼぼ亡霊であるかのような、青白い顔をした欲望者【HCE】が奥の部屋から、おがくずに満ちた玄関の間にこっそり出てくるのを見たのであった。万人 1 人 1 人である彼は、ハネムーンの時の服装で【裸体】、デイヴィー灯、象牙色の明かりとともに、拳に時計を握りしめ、オイ、お前、静かにしてくれ、とでも言うかのように指を差し上げていた。また、敬虔な彼の眼球の白目の部分は、彼女に黙って大人しくしているよう誓わせていた。

裁判が開かれる日の晩はいつであれ、フォックス・アンド・ギーズ【ダブリンの一地区】にいる12人の真の陪審員たちは、番号表示された彼らの家で、古臭い機械で互いに熱心に無線連絡をとり合っていた。その中で行われた投票により、関係者である白い太ももの 2 人の少女に対する姦淫淫行の罪で、彼に対し有罪の評決を下した。彼は干し草の中にいる彼女たちを観察し、彼女が草むらにしゃがんだ時、期待しながら楽しい思いをしていたというのであった。この時この男は、最初の接合としては恐ろしく開けっぴろげで、上記の場面から立ち上がった時、かなり淡いピンク色の顔色をしていたという。とはいえ実際にそれほどピンク色をしていなくとも、この国にふさわしい火器をもった警察がいる中で、精神の退歩が原因で、彼は性的興奮を得ようと臀部を露出したのだ。しかし、彼が言うところの燃えるような圧迫感の下にある快い刺激【自慰行為】や、それがない場合にはともかく常に栄養を取ることが価値あることだと彼の主張する十分な鎮静【射精後の状態】は別として、彼が言うには、洗いざらしのツィードの服を身につけ、タバコの吸い差しをくわえていた、実際の彼の本質であるこの人目につく堕落者が、精力がみなぎっているにもかかわらず、実体変化【勃起すること】を否定されたこと【裁判で不能であると見なされたこと】に対して強い忍耐を示していても――このことは一段と特筆すべきことであるが、おそらくその間、過去におけるのと同じくらいの確率で、最高の医学上の配慮の言葉から穏やかな苦しみを彼は受けたであろう――、あるいは、心からの願いをもって、関係者全員に対して、凝固の呪い【勃起しないこと】を是非嘆き悲しみたいと慌ただしく言う（きっとこれよりももっと適した言い方があったのかもしれない）だけの力しかない状態であっても――というのも、ゲップについての考えが蚤の胃袋の大きさほども頭にない彼は、確かに同じ量【1パイント】の食道部における胃液の逆流を伴っていたものの、キングズ通りのサモン雑貨屋を出たところで、彼の主要な楽しみであるこの 1 パイントピューター 1 杯のジンを飲みながら、（558） 2 、3 時間の親密なる談笑後【このことを】話してくれたからである――たとえ彼が24個の【陪審員の】鼻孔の膨らみにとって嫌悪すべき存在だとしても、また反面同様に、よそよそしくすることなく彼が主張していたように、一部の新経済政策によって生まれた起業家の目から見れば喜ばしい人間、被告席の後ろに座る我々の友人以外その罪を忘れてしまうような人物、一言で

言ってアダム・ファインドレイターのように評価すべき人などなどといった、過大に揚げ奉る声がたとえどのようにあるにしても、依然我々はサリーとともに次のように考える。つまり常識と法令への違反行為に対して何の情状酌量の余地はありえない、と。そしてその違反行動をあがなうにふさわしい方策は身体的切断である、と。それ故、公園にいた頬髭に泡をつけたヤラベアム【HCE】に対し、3ヶ月後、ジャーク王が発令した第1法令の第2項、付則第3項の第5条4に基づき、否が応でもこの判決が明日の午前6時きっかりに施行されることになった。酵母菌を運ぶ東寄りの風が、はじけるあられのような麦芽が、彼の7杯の蜂蜜酒に、彼の【醸造用の】大麦の成長に慈悲を与えますように、アーメン、とクラークは語っている。

その一方で、夜毎夜毎幻影が繰り広げられている楽しい庭園で、レイクスリップの20人プラス9人の子馬たち、娘たち全員は、楽しげな叫び声をあげながら、素敵な、ひときわ優れたショーンは何で出来ているの、何のために作られているの、という、非常に愉快な時間を過ごしていた。そして彼がいなくなればいいと大いに思っていた。というのも、フフ、彼女たちが惨めな気分でいる時ほど彼女たちにとって楽しい時間はなかったからだ、ハハ。

試練のベッドの中で、苦難の長枕の上で、記憶のきらめきのそばで、怯懦の掛け布団の下で、アホウドリのニャンザー【HCE】は敗退者のニャンザー【ALP】とともに、棍棒【ペニス】の力をそがれ、美しい毛皮【彼女のガウン】を釘にかけた状態で、彼、すなわち我らの祖先氏と、彼女、すなわち我らの現在の真の悲嘆に溢れた川の流れは、彼らは、ソウ、誓って言うが、彼らは確かに、今やっと分かったことだが、障害物に当たるのだ。

離れたところで泣き声。

一体我々はどこにいるのか。空間の名を使えば、いつ頃と言えるのか。

分からない。言い表すことはできない。おそらく諸君もそうだろう。

草地にある香しい杉で出来た家。ワイン園の庭。場面と脚本のプロット。舞台監督の台詞つけ。（559）都市郊外の住居の内部。劇場翼部の支えが2つ。場は室内。額縁舞台。通常の寝室のセット。サーモンピンクの壁紙の壁。奥には何もないアイルランド風暖炉。ロバート・アダム社製のマントル。勢いなく回っている、すすがついた安ぴかの換気扇がそれに備わっている。使われていない。左側には開閉可能な窓のある壁。開き窓には銀色ガラスがはめ込まれている。バネのついた簡易ドア。上部からはカーテンの金具覆いの垂れ幕がかかっている。カーテンはない。ブラインドは下げられている。右側は境界壁。イチゴ色のベッドカバーがかけられた2人用ベッド、枝編み細工の安楽椅子、およびステッキがかけてある授乳用腰掛け。その向こうにはフェイスタオルがかかっている殿堂のような本棚。1人用椅子。椅子には婦人用肌着。バックル付きのベルトのついた男性用ズボン。ベッドのノブにカラーがかけてある。小太鼓と草摺の装飾品のついた、ウミエラのような真珠貝のボタンのついた男性用コールテンの上着が釘に吊るされている。その釘には女性用ガウンも吊るされている。マントルピースの上方には、ミカエル、セイタンをやっつけている槍、煙を吐いているドラゴンなどを描いた絵。正面にはベッドのそばに小さなテーブル。寝具のついたベッド。スペアベッド。旗のようなつぎはぎのあるベッドの上掛け。作りはケワタガモの羽毛。ステージライト。電球はないが点灯してあるランプ、スカーフ、新聞、タンブラー、多量の水、甘味飲料水の入ったポット、時計、副次的な小道具。扇、男性用ゴム用品、ピンク色の。

ある時間帯。

演目：無言劇

カメラクローズアップ。主役たち。

ベッドの前方にナイトキャップをかぶった男。後方にカールピンをつけた女。幕が上がると既に舞台に登場している。脇からの視点。冒頭の調和のとれた位置。オーイ！　エッ？　ハ！　所作に注意。マシューの視点。一部男が女を覆い隠している。男は辺りを見回し、野獣のような形相で、どんよりとした目で、肩甲骨を六角形に怒らし、戦闘的な体制をとり、怒りを露にしている。仕草。赤みを帯びたブロンド。アルメニア人のような胴体。黒いほくろ。ビール色の髪。大きな体躯。主教主義者。年齢不明。女は腰掛け、天井を見ている。老醜な顔つき。尖った鼻。三角形の口。羽のような体重。不安な表情。ウェールズ風トースト【チーズトーストの一種】のような顔色。ヌビア人の光沢。鼻の小さいくぼみ。泥炭質の髪の房。小柄。非国教派。年齢不明。カメラクローズアップ。演技！

男子の人を呼ぶ声。離れたところでの泣き声。タブロー。彼女の動作。

カメラマンに撮影開始の指示。

牝馬ポカホンタス【有名な競馬馬の母親の名】の丈夫な前駆と、フィニュアラ【白鳥に変えられたアイルランド伝説上の人物】の白い肩を使って、あの洗練された血色の悪い娘【ALP】が、まさに山羊が跳ねるように、2段ベッドから、老いた母親メソポトマックのごとく飛び出て、8×8＝64のマスを通り、ドアからランプをもって出て行く様を諸君も見るべきであった。若い男子【HCE】の大きな肢体は女王の指図を求めてうろついた。（560）女神である女性を求める解き放たれたプロメテウス。相手のコマをとろうと！彼の動作。暗転。

回り舞台。廊下。

場面転換。壁の枠張り物の壁。背景を上下させる溝と舞台天井。スポットライトが壁の布地に当たる。照明の投射が舞台傾斜部、およびせり出しに向けられる。部屋が沈もうとしている。部屋の背後で階段が沈もうとしている。2人の人物。合図のあと掛け声。再演技。

この古いまやかしの家は、非常に不完全なものに見える。

実際不完全である。死んだ家なのだ。しかしこの家が完全なものになった時には、ポーター【HCE】の素晴らしい頭脳は質に入れられているであろう。間もなく。この城に住む指物師は当然のことながら、チェッカーの盤目状になったこの階段に足を踏み入れた。確かにその階段には正方形の段1つしかなく、よろけることなく、彼らは再び連れ立って段を飛ばして階段を登ると、広さが下の階の2倍ある2階の角に出る。沈黙の時間と目的。

何と素晴らしい舞台美術家だろう！不動産業者にとって理想的な住居だ。入り口に立つと音楽的なベルが鳴り、沼地の神たるこの泥だらけ氏よ、注意せよ、と告げる。リンリンリンと。彼ら【子供たち】全員を守る東方3博士になれ、とも。愚か者、力を尽くせ、とも。やめろ！どうか、やめてくれ！頼むからどうかやめてくれ！アア、頼むからどうかやめてくれ！彼の家は何と悪い予感を与えるものであることか、そう思わないかね。まさにその通りだ！皇帝一族の誰かが床の下に埋められている。ここにその人物の少量の酒がつがれている。またここには彼のアラジンランプもある。青髭の周りには誰も手に出来ないくらいの略奪品がある。彼が殺した人間に対して、我々は新たに感謝の気持ちを表そう！

教えてくれ。言ってみればポーター家の者たちは、新聞に載るようなこそ泥を働いたあと、善良そのものの人々になっているのかね。まさにそのとおりだ。皆口を揃えてそう言っている。そしてこの点においては、ポーター氏は（後方に隠れている悪漢であり、サバの模様のシャツを着、カツラをかぶっている）卓越した父親であり、ポーター夫人は（彼よりも前方にいる女性でありながら頭が弱く、サフラン色もどきの色合いのナイトドレスを着、泥にまみれた様な髪をしている）非常に心優しい母親である。こんなにも互いに結びついている家族、父親と母親は、新聞にも載っていないし、他のところでも見受けられない。マスターキーがそれに適合する錠にはまるように、この都市建設者はこの密かな川の流れに適合するのだ。彼らはポーター家に関わるもの以外何ら関心をもたない。何と素晴らしい！彼らは素晴らしく素敵な者たちではないか。その服装を見れば、彼らが類いまれなる由緒ある旧家の出であることが見て取れる。誰であれあらゆる種類の音楽芸術において、自分がそうした生活を味わったことがあることを認めなければならない。私は自分が非常に多くのことを察知し始めたと思う。ただただ本当のことを語ってくれ。出来るだけ早く知りたいのだ。

（561）怖がっている者のいるところに到達するには実行あるのみ！右を向け、左を向け！この2階の左右に2つの部屋がある。一体誰のところに彼らは向かおうとしているのか。いや、確実に、ポーターの年端も行かない幼児のところへだ！女子学生や、尻を叩く者や、おてんば娘をからかう者たち【になる子たち】のところへだ。ここに君たちの知っておくべき事柄がある。2人のうちのこの者はかつてもう1人の者だったのだが、今はこのことはそれとは正反対のことになっているということである。へー、そうなのかい？　コルシカの兄弟【デュマの小説名】なのかね。彼らは数えられないほどたくさんいる訳ではない。彼らを歓迎しよう。大きなベッドと小さな蜂の巣箱がある。オヤマア、何という寝台だ！例えば、まず初めに誰が寝ているのか。純粋で無邪気な娘っこだ。ローマの3人の女神たち、クニーナ、サトュリーナ、エデュリーナのようだ。でも何と彼女はかわいいのだろう！君たちの娘は愛称をもっているか。そう、実際、この小さな物語の中でずっと君たちはこの名を耳にするであろう。その名はキンポウゲというのだ。彼女の飾らない名前は彼女が未来の女子監督生であることを告げている。彼女は何と魅力的なのだろう。そして見過ごすにはあまりに彼女の名前は愛すべき、チャーミングな名前だ、苦さで一杯の祝杯の杯を濾して飲むようになった今、私はそのように感じる。彼女は父親が最も愛する真珠のような娘で、兄のおばに当たる【トリスタンにとってイゾルデはおばに当たる】少女らしい花嫁である。貝殻模様のスプーンの裏面や、指ぬきの入った小箱に付いた鏡こそが、唯一彼女の最も親しいガールフレンドを映すことが出来る。彼女の優雅さをうまく表現するには、ギリシャ語を使い、彼女の善良さを浮き彫りにするには、聖人伝集に載せるがよいであろう。聖なるイリーナ【虹の女神】よ！しっとりと濡れた薄片の集まりとなったライラックとともに月桂樹を与えよう！あちこちに元日のためのオオキナグサ、風に運ばれる花やヘリオトロープの花があるし、冠にするためのアメリカナデシコ、アマランサス、キンセンカも咲いている。我々を魅するものの中に最も明るい色の結びリボンを付け加えよ。アア、恩寵を授けたまえ！アア、最愛なる者よ！ボッカチオの『デカメロン』からも、彼女以上にうまくたちまえる娘を造り出すことは出来ないであろう。誰も彼女から、彼女の処女性を少しでも切り離すこと以外望まないであろう。そしてそれ故、見よ、あっという間に、飛んでいる蛾【男】を素早く手でとらえてしまうほどの早業をもっているのだ。蛾の母なのだ！血肉となった彼女の言葉を示そう。後生だから近寄らないで！というものだ。これは聖母の眠りだ！彼女はあまりはっきりとは認識出来ないだろうが、新鮮な朝が来た時、あのことが自分の身に起ったと彼女は思うかもしれない。それは諸君が知っているし、彼らも知っている、あの2人が言わないこと【妊娠】だ。お願いだ、もし怒られたら彼女は顔を歪めてしまう。この娘っこの猫ちゃんは寝ている。しかし彼女の心の奥底の最も優しいところには、抱擁者のバッジがある。現れるべきは勇士としての夫だ。もちろんそういうことだし、それに誘惑者も一緒にだ。娘たちよ、立て、そして彼を目指せ！1人でか。1人とはどういうことか。つまり我らの闘士である彼女は、彼女だけで、他の人を伴わずに寝ているということだ。娘っこは決して1人ではないよ。彼女の部屋を見れば分かるように。というの

もいつも猫のティデュルを見ていられるから。そして彼女のその小さな遊び仲間に対し、（562）フラシ天の敷物の上に座りながら、その名前を口にしていられるからだ。そうではないかね。アラ、この子はしゃべるのかしら。結婚するの、どうやって？ バラの花びらが開く音がする。アア、ビドゥルは私の遊び相手よ。私はビドゥルと遊んでいるの。この子は素敵な大事なバリトン歌手と結婚することになるでしょう。でも乙女らしい、金色の、娘が着る、楽しそうな、女の子っぽい、花のような、無邪気なきれいなケープを着た未婚の彼女の方がずっといい。私も是非そうしよう。甘美で本当に魅力的！ ドリーはせっかちだから泣くのよ。ダリーはお風呂の時間だからドタバタしているでしょう。最も愛らしい彼女はまさに小石をも哀れむ女子で、彼女のことで我々は3つの願いをあえてしてみようと思う。素晴らしい考えだ！1つは、7回密かに洗礼式に臨んでくれること、2つ目は寺院の垂れ幕のために青色から深紅にかけての布を織ってくれること、3つ目に故郷の山が割れ、その中で彼女を保護してくれることである。ブリジッドスクールのあちこちをはしゃぎ回っている、チャーミングなキャリー・ウィンパーズや、生意気なスージー・モースパンや、陽気なアンナ・パッチボックスや、お馬鹿なポリー・フランダーズのような、他のすべての楽しげな普通の少女たちよりも、本当にずっと将来性に満ちた娘として彼女は開花するであろう。はねかけよ！ 遊びの精神を。

それで我々が、妨げられた睡眠やゆりかごでの日々について漫然と話し合っている時から、誰が第2の寝室で眠っているのか。2人の男の子だ。アア、なるほど、神聖なる見張り役という訳だね！ その子らは何歳なのかね。生まれたらすぐに親にまとわりつく年齢を過ぎ、肉体をまとって生きているあの年長者たちのように年をとっていくのさ。そうなんだね。そして彼らは2匹のウジ虫のように互いにぴったりくっつきあっているように見えるし、実際そうなのだ。こういったことに気づいたと思うのだが、どうだろうね。その通りさ。我々の輝く雄々しい赤子フランク・ケヴィンは、思ったことを躊躇することなく口にする子だ。彼の目を覚まさせてはいけない！ 我々のこの金髪の子の目を。主の手足となる彼は安らかに眠っている。祝福されキリストから頂いた杖を高く上げながら。まさに彼そっくりの顔立ちをもつ天使のような表情で。彼の口は幾分開いているようにみえる。あたかも角笛を使いながらヨーデル風に歌っているかのようだ。この目の中のあの微笑みは常にクイン神父の再来を思わせる。彼が世界を勝ち取る時、ほんの短い間彼はかわいらしい微笑みを浮かべるであろう。彼はデーン人としての誓いを立て、我々のイングランドと好ましからざる両親の悪意の元を去り、アメリカに行って富豪へと至る仕事を見つけるであろう。そしてその時、この子は華やかにも騎士になるであろう。誇り高く泰然と構えるこの明敏なデーン人は。アア、私はこの俗界の音楽を敬う！ 途轍もなく！ 彼は実際あまりに賞賛すべき子だ、この世に唯一の子だ！ 物語の本の中に彼のような子を見たことがあったと思う。私は未来の彼のような人物にどこかで会ったように思う。しかし口をつぐもう！ 私は許されざる罪を犯した！ 君たちの軽微な罪の方がいい。心からそう思う。

（563）静かに！タラのレバーがある側【左】にいる双子のもう1人は、尖った門歯を見せながら、乱雑な入れ物から真っ先に選んだお菓子のことで寝ながら泣いている。クズめ。何と厄介な奴なのだろう！ この子の表情は何と意気地がない表情なのだろう！ こうした点がこいつと親しかった者が、こいつの死後涙するところだ。こいつはピペットを使ってインク壷から落とすように、万年筆からインクをとって自らにかけたのだ。安手のエヒウ【古代イスラエルの王】のように、ジェイムズ・ジョイスのように、酔っぱらいの、おそろしくウンチ垂れのアイルランド人（男として神に逆らう巨人族ヨトゥーンだ）なのだ。君たちは酔っぱらいのらんちき騒ぎの中で、個人的にこいつと知り合うことになるであろう。でもこいつが誰のかかとを右手でつかむのかは分からない【聖書中のイサクがイサウのかかとをつかみ、ヤコブと間違えた話から】。というのも、私は君たちにこのことを話していないからだ。オオ、胎児のように寝ている！ アア、致命的な落伍者だ！ 前者は愛され、後者は取り残される。高慢な花嫁は異邦人に託される。祝福されないまま生涯を通して国旗の裏面に乗っている【アイルランドに背いている】一方で、月桂冠を額にかぶり、気をおかしくして、寒々しい（ブリーク）ブレイク族【ゴルウェイの一族】の一員になると誓えば、こいつはイギリス支配の中に完全に入るであろう。君のしゃべり方にはどこか俗悪なところがないかい？ 寒々しい（ブリーク）とは一体どういう意味なんだい？薄い（ブレイク）インクを使ってちょっと酔っぱらいながら手紙を書くことだ。アア、そうなのかい？ 私は白のペンと黒の便箋を使って、私の愛しい人に最高に明るい私の金髪で結わえて匿名で手紙を出したことがある。ドナトゥス【4世紀のラテン文法家】が送り先で、住所は次の通りだ。そうだったのかね？ 「猫と鳥かご亭」から出したのだ。アア、分かった、分かった。汗というインクの中に、こいつはいつか目標を見いだすであろう。ジプシーのドゥヴリューがリリアンに誓ったこととか、楡の木は何故とか、石はどうやってとかを書くのだ。生じるのを見るとは思ってもみなかった物事すべてを、過去に知っていたとは限らない。おそらくね。しかし私の個人的見解では、彼らエサウとヤコブの2人は、パンくずを食ってスクラムを組んだあとは、とても親密な未来のポーターたちだよ。2人は共演スターとして、いたずらっ子と洒落者として、ドニーブルック市場の戯け者として、最高裁判所にいるドルフィン【17世紀イギリスの政治家・財政家】の息子として生まれたのであろう。『ロメオとジュリエット』の話のように、何と戦慄を感じさせることか！ 何と無邪気な聖なる子供たちであることか！ 子犬たちのように彼らは素晴しく元気だ！ 彼

らの温かい心は、朝食の時までにイースト入りのケーキのようになるであろう。バラ色の喉や若々しい歯をもっているということで、私は銅貨銭程度の祝福を彼ら2人に残すつもりだ。カギタバコ入れの中の歯車のごとく、価値の薄いブリキのような金を置いて行こう。金の中には一部まとまったものになるものもあるが、すべての金は離れいくのだ。人間が墮落したからといって嘆いてはいけない。しかし、神の企図は崇められるべきものだ。それ故君たちは人間かネズミかのどちらかであらねばならず、どっち付かずであってはならない。受け入れよ。そして受け入れよ。焦ってはいけない！ 柔軟に施しをする我々のような人物になれ、さて、時は静かにす早く過ぎ去っていく。これらの素敵な今ここにいる者たちに別れを告げよう、そっとさらばと、ケヴィンよ、ジェリーよ。明日まで！

（564）双子よ、これまでとは異なるバランスを欠いた位置とはいかなるものかをどうか教えてくれ。マークの位置だ！ 男の臀部が既婚の女の体を一部隠しているのだから、それは後ろから見るやり方だと君たちは気づいている。HCEの不始末のために「バランスを欠いた」と言われるのだ。君たちはこれまでにヘリアス・クローサスという、公園内の動物園にいる白と金色が混じった象【HCE】についての話を聞いたことがあるかね。そのようなことを言うから驚くではないか。こう言うのを女【ALP ？】が許してくれればの話だが、我々は真後ろから、この美しい公園の背後【HCEの臀部】から、全く素晴らしい光景を俯瞰的に見ているのではないかね。ギリシャ人であれ、ローマ人であれ、ここに来たあらゆる外国人から、フィンは、彼の公園は大層賞賛されている。フィンが世界で最も偉大だとされているように、世界で一番大きいとされているこの公園を、真ん中の真っ直ぐの道路（レリーフの地図を見よ）が分断している。右側の隆起したところでは、見栄えの良い副総督のロッジが対峙しており、一方反対側に目をやると、正反対のこの上なく美しい側面では、同じように見栄えの良い、首相の住居が見る人を驚かす。周りには芝生が少しばかり心地よく植えられている。茂みを通ると、驚くべきことに、草木の自然が紳士たちの館のそばで何と生き生きと生えていることか。そのような時浮き浮きした気分になるのだ。ここでは大規模な夕食会が催される。それは先祖代々の古い家柄をもつ人たちのためのもので、10000人以上の者のうちの100人に限られた後継者が参加するのだ。これは、これは、でも君の言うことにも一理ある！ これらの背の高い薬木からは、関節の痛みのための樹液がとれる。また異教徒であるイスラム教徒にとっては冠毛がとれる。聴きたまえ！ これは本当の話なのだ。あの彼女のリフィー川の川岸では、何と、繁殖力のあるオリーブの木が植えられていたのだ。何と、松の木が1トンもの実をならせていたのだ。北国にしては何と赤が目立っていることか。自然が赤裸々にはぎ取られているこの世界を、黒みがかった青の一帯が横切っているが、これは草木のベルト地帯の存在を示すものである。そしてまた、日陰を進んでいるために、田舎の騎兵隊は助かっている。向こう側の谷でも、山の妖精が住んでいる。かわいい鹿が公園内でも捕獲出来るが、これは原っぱにとってはひどく哀れむべきことだ。【血に染まったような】紅色に少しばかり隆起したところは、昔の最初の頃の殺人が何度も行われた丘の中心的一帯だ。これは内輪もめによる殺人なのだ。両側で木が語りかけ、石が歌っている。歴史の重みを感じさせる雨だれの跡もまた、聖ルカ教会の大僧正であり、パトリック寺院の参事会長であるシェイマス・スウィフト卿とともに保存されるかもしれない。これらの新たに付け加わった興味深いものすべてを直にこの目で見ることは、何と親しみを感じさせることであろうか。それだけかね。いやまだだ。ここに1つある。3つの門をもつ地味なアジア風の庭園があるこの王立公園は、馬に乗っている人たちにも、（565）散歩をしている人たちにも、夜遅くまで一般公開されているのだが、その奥にある「空虚な穴」と呼ばれている低地を必ずや目指して行かなければいけない。ここはたびたび我々を貧民街にいるような陰鬱な気分にさせ、悲しい思いを抱かせ、また奇妙な考えを脳裡にもたらす。しかしながら、このダブリンという都市の警官たちの楽隊は、風の強い水曜日の日に、彼らのよく響く付随的な響きをそこにもたらすのだ。不協和音を！ 不協和音を！

真の友人としての手を君の膝の上において、自分が言うことに十分注意してもらおうと思っている時に、何故君は我々の動く像に震え始めるのかね。君は誰を一番恐れているのかね。アムステルダムにかつて住んでいた者がいたが . . . しかしどうして？ 君は震えている、惨めにもまさにゼリーのように！ そうではないのか。ギネスでも飲むかね。素晴らしいスタウトを1瓶どうかね。多すぎるかね。そう、何と震えていることか、臆病だな！ ヴォーティガン【5世紀のブリテン王】、いやゴーティガン【ヴォーティガンのゲール語読み】になれ。主よ、お恵みを！ あるいは脳が悲しみを感じまいと尻込みしているのか。そのような雰囲気だ！ 何と恐れていることか！ ただの影絵芝居なのに。これはただの饒舌な冗談だ。何となく口に出たに違いない。アア、2人とも口を閉じたまえ！ 恥を知りたまえ！ 未だ私のためにあるこの耳で、目の前のどこか他の場所で彼女の声を聞いたのだ。

点灯。ゆったりとした音楽。外は雷鳴。

ネエ、あなたは夢を見たのよ。パトリックの夢？ お父さんの夢？ 聞かせて！ この部屋には幽霊などまるっきりいないわ、坊や。図々しい悪いお父さんもね。カッポ、カッポとお馬に乗ってね、坊やちゃん！ お父さんは町に行くのよ、立派なお店のお仕事のために、明日ずっと遠くのダブリンまで、岩でゴツゴツした道を行くのよ。そんな恥ずかしい生意気そうなお尻だと、2回ピシャッと強く叩いてもらうわ、パパパパに。

――彼は寝ていないのか？

――いや、ぐっすり寝ている。

――夜彼は何で泣いているのか。

――【泣き声は】子供らしい言葉だ。本当に！

それはただあなたの想像が生み出したものに過ぎないのよ、ぼんやりとした。哀れなちっちゃなか弱い魔法の世界なの、心の暗がりなのよ！ サア、私に話してご覧、坊や！ 私のショーン！ あらゆる川の流れがくねり、恵みの樽を転がし続け、近づく朝から夜が離れつつある間に。

皆さんが馬車でルーカンを通る時には、訪れるべき硫黄温泉を通り過ぎるよりも、むしろそこに行って旅館に逗留することの方が、間違いがありません！ ハンマーは小石を砕き、つるはしは岩石を割っています。大通りでバレーを見るよりも、ベッドの中に閉じこもっている方が心地よいものです。あなたの毛布の中にくるまりなさい。（566）というのも、あらゆる道路の背後では競馬が行われ、身の破滅の元となっており、賭け屋は貧乏人から巻き上げた富を一生涯賭けに使っているからです。チップにしてみると揚げたタマネギだったり、振りかけてみると硝石だったり、飲んでみると胆汁のように苦い飲み物だったり、割ってみると石の様なパンだったりすることがあるのですが、おいしいブルーベリーのプッディングを次から次へと口の中に入れてみると、素晴らしいことになるのです。暖かくしてお休み下さい。月の光の中、妖精たちが、何故だか訝しみながら、私の百合のような宝石を光らせ続けている間に。

寝室の中。この宮殿内部は半ば朝になっているであろう。4人の家令は、今はもう存在すべき地位をもった普通の常用馬とともに、全員自分たちの鞍を身につけ挨拶をし、鉛筆を削るであろう。イギリス人のサッカーソンは両手にいくつかのマッチを持ち、妹のモップ使いのケートは、しゃべりながら、腰を振ってズロースを下ろし続けるであろう。これらの12人の主な男爵たちは、一団となって腕組みをしながらそばに立ち、あらゆる逸脱行為や空騒ぎを押さえ、そのあと談笑に戻り、同じ話を繰り返し、自分たちと外敵との間に道一杯の重要なる古文書を置いて、それを編集するであろう。また処女の花嫁たちは皆陽気に振る舞って、自分たちの垂れた髪に灰をみぞれのように振りかけ、また今後喜びの鐘を鳴らそうと、悲しくも指環のない手にも灰を振りかけるであろう。身分の高い貴族の未亡人は、天国におわす神とともにいる最初の母親として、これまで通り跪き続けるであろう。王宮の塔ドルフィン塔とデブリン塔の中にいる2人の王子たちは、何も見ずにそのまま横たわるであろう。爵位を得た貴族の未亡人の【配偶者である】黒ずくめの支配者は、その武器を見せ、刀身をすべて露にし、誰にもそうしたことを見られることなく歩き回るであろう。幼子のイザベラは、その抜き身を出している最初の父親としてのこの黒ずくめの支配者に対して、隅の方で従順に振る舞うであろう。このあとこの邸宅は完全な朝を迎えるであろう。この中を必ず見るように！

――大豚よ、注意せよ！ 彼らはお前を見ているぞ。大豚よ、戻れ！

天におわす神よ。幻影だ。それから。オオ、突然数多くの光景が。何と魅力的な光景であることか！ 無角の雄鹿！ ゴツゴツした岩山！ あの塚！ アア、種馬だ！ それ故偶発的なことは起こりそうにない！ その結果何があるのか。君たちは暗闇を恐れているのか。盗賊が怖いのか。私はこの荒々しい場所で、我々の進む道に迷うこと（我々の道と認めてはならない）を恐れている。どのようにしてそれは終わりを告げるのか。実にそこには粗毛のようにぼうぼうと草木が生い茂り、野獣でもいそうだ！ 君たちは何について不安を表しているのか。不幸が訪れる前に、きわめてみすぼらしい標識を見なければならないが故に、私は不安を表している。天へのはしごを司る神よ、緯度で言えばどうなるのか。君はここに書いてある最初の文字が読めるか。私だと読み損なってしまう。そうだろう！（567）ブラックロックを通って、8マイル0ファーロング先にはダン・レアリーのオベリスクと書いてあるね。数千歩先には中央郵便局。半リーグ先にはウェリントン記念碑。数百と9メートル先にはサラ・ブリッジ、さらにあの地点まで1ヤードだ。ヒー、ヒー、ヒー！ あれを、あの屹立しているものを君たちは注視しているのか。あのような無制限な胃袋をもちながら。2本の滝だろうか。先端がどぎついピンク色の狩猟帽が目に入るので私はじっと見ているのだ（オオ、何と大きな、オオ、何と偉大な、オオ、何ということだ！）。これは偉大であり巨大で、先端をこのようにピンク色にしておく使い方は、真の製造者の挨拶としてふさわしいものであり、また我々のそばにいる多くの市民のためになるものである。ハンプティー・ダンプティーのように屋根の上に落ちて壊れてしまう時には、長い間標準的な王宮の像となっているこの像は、祝砲を撃つほどに、王宮の要塞からの熱烈な歓迎の言葉を投げかけるであろう。これらの遺物や、彼が入ってくる、小川の流れる野を注視せよ。大嵐の怒りのために外国に留まっていた女王と、（彼女を嘲笑してついたあだ名は「小さな小人」というものだが）、権力者である10代目の彼女の主君が、明日聖ミカエル祭の3時から4時までの間に、王のすべての馬、王のすべての臣民、騎士たち、テンプル騎士団を率いて、灰色の外套を着た伝令ウラフ・ゴールダークキールドに案内され、この地に入ってくるということを聞いたことがないか。犬だ！ 犬もいる！ 鳩の群れが彼女のために放たれるであろう。そしてその鳩の宙返りする姿が放映されるであろう。徒歩での巡幸がなされるであろう。そうではないか。私は毎週このことを考えている。王は教会世話係を脇に従え、アーリア人である司祭叙階50年を迎えた者の言葉を聞き入れ、そしてまた諜報機関長ノランと、金色のビーグル犬と白い鹿や牛のような狩猟用テリアを連れた――誰がそれを疑うだろうか――バカニーア【17世紀後半スペインの商船を襲った海賊】の大将ブラウンの助言に基づいて、我々の僅かばかりの所得税を使ってやってくるであろう。青と黄褐色の旗【ホイッ

グ党の旗】がはためく中、狩猟が行われるだろう。これは高位の者たちに求められている行事だ。馬の乗り手同士が、お前が乗っているのはロバだと互いに言いあっているかのように、人々は歯を剥き出し、にらめっこをする。何ということだろう！ 至るところに女がいる！ 何とギロチン風の窓から首を出している者がいる！ 速歩で進もう！ 留まっていると危ない！ やぶにらみの娼婦がイグサのカゴから何やら取り出し我々に言い寄る。外衣を着た乞食がささやき声で我々の防水帽をねだる。我々から離れよ！ むち打ちの刑に処せられるぞ。思うに、教皇の命によって！ しかしもし希望を言わせてもらうならば、私もその場に居合わせたいものだ。こうした奴らはおびき寄せて全員二輪車や三輪車、そうした安っぽいちっぽけなタイヤの車の上に留めておけ。あらゆる地域から、あらゆる場所から【人がやって来るであろう】！ アイルランドは北極のようになるであろう。そして人々がペロタをするのも、砦の芝生でクリケットに興じるのも、ゴルフで賭けをするのも見かけなくなるであろう。【あらゆる人々がそうすることをやめ、やって来るであろう。】（568）猫のミスマも大の字になるのをやめて、見るべきものを見に、海を渡ってやってくるであろう。赤い服を着た人も、オレンジ色の服を着た人も、黄色の服を着た人も、緑色の服を着た人も、以前紫色のゆっくりとした馬車の後ろにいた時のように、今もその後ろで青色の服を着ている人も。聖母マリアよ！ すべての人が活気づき、大多数の鐘が鳴るように、彼女の笑い声も高らかに響くであろう。どうか忍耐力を持ってくれ！ 婦人たちに席を譲ってくれ！ 地主のレディー・ヴィクトリアもパラソルの下で椅子にもたれて見物し、自分の席で興奮して立ち上り、すっかり目を回し息切れするであろう。雨滴に満ちた大きな雨雲嬢が押し黙まりながら落とすと、ソウ、イヤ、雨を降らせると、そのおかげでイギリス人もゴート人も見やすい場所の取り合いをやめ和解するであろう。大いにありがたい！ 雨滴の大きな塊である黒雲嬢から、何と甘美な雰囲気が漂っていることか。そして直ぐにキリギリスと蟻のように人々は交換し合い兄弟となるであろう。この動きに対して帰りを急がせるべきは涙ではない。6人の情夫だ！ パウン！ 誰が鐘を鳴らしているのだ。愚か者が勘定を払っているのだ。缶1杯飲んだので。鳴り響かせよ。紐を引いて鐘を鳴らせ。この儀式について語ってくれたまえ、もっと、もっと、ずっと多くのことを！ では喜んで！『インストロプレッシブル』紙に載っていることだが、我々の市の長たる市長閣下、あの強い信念を持ったトールマン氏が（我々のナンシーの好意の対象であり、我々だけの女ナニーの偉大なるお相手）帽子を掲げ、晴れ着を着て、バブーシュ【オリエント風スリッパのような履物】の上にウェリントンブーツを履き、雲模様のステッキをもち、金色の首飾りをかけ、ラム酒を飲んだ市の職員に囲まれ、ピンチガット・レイン、ホッグ・ヒル、ダーク・レイン、ギベット・ミード、ボ・ウォーク、バンベイリフズ・レイン【すべて中世におけるダブリンの呼び名】からやってきた人々の手の輪に行く手を阻まれながら、朝の挨拶のキスをもってブロードストーンの丘で国王陛下を迎え、豪華なクッションのある彼の部屋へと案内するであろう。陛下に対する慎ましやかな義務だ！ 起きよ、ハンプティー・ダンプティーよ！ イア！ イア！ ウィッカーよ！ あらゆる面で病気持ち！ 我々はただただこの年長の男がいないのを寂しく思うばかりで、キャベツ畑の墓の中の、優れた頭脳の彼の遺体を首尾よく見いだそうとする。彼のあの部分は大きいはずだ。老いたフードつき帽子男の！ このことはあらゆる日々のうわさ話となろう。太陽の輝きによって！ 完璧な晴天が勝ちを治める。このあとスウィフトの悪夢を押しのけ、市長は明るく照らされた子牛皮紙の原稿を始めから終りまで読み上げることで国王に語りかけるであろう。しかし国王は、エジプト国王は、私の陛下は、偉大なる国王は、その間不機嫌で（彼のための絞首台が、催し物の責任者であるレックス・イングラムによって、彼を教化するためであるかのようにそこに建てられている）、（569）杖でアラス織りの豪華な彼のズボンをつついていたり、またクリミアの大きな胸の婦人たちと冗談を言い合っているであろう。ヒダ飾りをつけた彼女たちの慎ましやかな滞在に援助の手がここに差し伸べられているのであり、このことは滑稽さを感じさせるかもしれない。ともかくも、有象無象の集まりだ。教会の組鐘がその鉄琴の音を鳴らすであろう。ガラン、ガラン、ガラン、ガラン！ 北プレズビテリアン教会、環状鉄道高架橋下の聖マルコ教会、聖ローレンス・オトゥール教会、聖ニコラス・マイア教会。ほどなく鐘の音を聞くことになろうガーディナー通りの教会。聖ジョージギリシャ教会、バークレー通りにある迫害を受けた教会、使徒パウロ教会とともに、聖フィビスバラ街道、アイオナ・イン・ザ・フィールド街道にある教会、そしてその一方で、ロイヤル・ホスピタルの門のところにある聖ジュード教会、ブルーノ・フライアー教会、ウエストランド・ローにある教会、廃墟となった聖モリニュー教会、ステラ・マリス教会、ワードローブ塔の背後にある聖ブライド教会及び聖オーデオン教会。何と魅力溢れる効果をもっていることだろう！ ガランガランと鳴るすべての鐘の響きは！ 自分自身の祈りを、こんなにも多くの教会に捧げることなど出来ない。今日は聖なる年のうちの1日なのだ。我々もこの騒ぎに加わろうか！ 聖アガサ教会やトランキッラ修道院はもの静かに門を開けているが、マールバラ通りにある教会【聖トマス教会】では、偉大なるキリストや聖なる守護者は公然と寝ずの番を置くであろう。聖なるバジリカがあるからだ！ しかし、司祭としての儀式の執行はないのであろうか。イヤイヤ、再びなされる、行われるのだ！ 主に、水辺で【dock との言葉遊び】。カンターベリーやヨークで、町の人々や旅行者のために晩禱が行われる時、ダブリン市長はパラソルのような傘である金箔のステッキの先を高く掲げ、皆に次の言葉を与えるであろう。幸あれか

し、幸あれかし！食卓に向かいたまえ！そして食事の光景！彼のためにこのサンカノゴイをバラバラにしろ、私のためにこの鶏肉を小さく切ってくれ、あそこの者にサギを見せてやれ、彼女に彼女の取り分の鳩のもも肉をとってやれ、皆のためにウサギと雉の肉を切ってやれ！歌え、老いたフィン・マクールの歌を！大酒を止めどなくがぶ飲みした時の奴は、気のおけないいい奴だ！ヒップ、ヒップ、フレー！というのも、我々は皆愉快ないい仲間で、誰もこのことを否定出来ないからだ！ここにあんたのための細切れになったマスがある、また背骨を切り砕いたサーモンや、スライスされたチョウザメや、ソースをかけた雄鶏や、髭をつけたロブスターもある。ヒルトン・エドワード【俳優】を食事に呼んでやれ！もっとパントマイム劇をやってくれ！何だって、イタリア人が1人もいない？どうして、モル・パメラのような役者はいないのかね。それなりに！我々のそばにいる舞台俳優は、門まで行くのにもみくちゃになる。メソップ氏やボリー氏は自らについての劇を創作している。というのも彼らは誰にでも通じる劇を書く、ヴェローナの2人の紳士だからだ。長老のナウノーと長老のブロラーノは（結局！とどのつまりが！）深紅の服を着たバラのような彼女を舞台の上に乗せるべきだったという、適正なる悔悟に完全に浸っている。彼ら2人の大いなるペテンぶり！いかに彼らが彼女を得ようと努力奮闘したことか！あのような子供染みた行為！彼らの口の文化！何と専横的な力だろう！断じてそう言える！私の名前は「新奇」であり、丘の上に住むグランビー【俳優名】なのです【と彼らは彼女に言ったのであろう】。素晴らしい！あんたたちは人を裏切ることに精を出す。（570）私の名前は「異常」であり、「山を越えたところ」に住んでいるのです【と彼らは言うべきだったのだ】。誠に素晴らしい！彼らのショーは、自然の荘厳な沈黙についての歌で、その王にふさわしい音楽で幕を閉じることになろう。深い憂愁と詠嘆！優しいハープの音が加わり、人々に刺激を与えるだろう！その音によって、野外では少女たちが体を回転させ、雨乞いの踊りの様なダンスとなり、障害物が辺りに散らばり、軍事演習のような大規模な音が起こり、ヴェスヴィオ火山のように花火が打ち上げられ、【燃え残りが】雪片のように落ちてくるであろう。夜の帳の中を、集まっている閣下夫人及び着飾った婦人たち全員のために。今晩熱狂的な町の中にずっと留まる者もいる。君たちは聞かなかったのか。このことについては本にも載っているのだ。昨日誰かが言っているのを耳にしたのだが（腕甲をつけた銃兵ではなかった）、君が明日ここに来てみると、明日のものは今日ここにあるものとは全く違うものであろう。そうだね、でもこう考えなければならないことに気づきたまえ、昨日モーナガ嬢【アーサー王の妹、妖術師】がいた場所には、今日もモーナガ嬢がいるし、他のトト【エジプト神話中の神】の場所でも、昨日も今日も常に明日であるということを。アーメン。

本当にそのとおりだ！真実だよ！私にもっと言わせてくれ！そうすればもっと深い思考が生まれる。郷士であり金持ちのポーター氏は、必ずしもそれほど頑健ではないのかね。最良の質問をありがとう、彼はそれどころかヘラクレスのように並外れて丈夫だよ。見ての通り以前よりも遥かに丈夫だ。一腹の子供たちにエプロンをつけさせる【手落ちのない養育をする】ように、彼に誰かが言うだろう。あのハンサムなポーター氏は結婚してずっと長いのか。アア、そうだよ、この一家のリーダー閣下はダブリンに長く住んでいる間、ずっと結婚しているよ。この町で彼は我々の愚か者【ロバのこと？】のように活発であるようだ、そしてまさに息子と、2人の素晴らしい息子と、そしてまたこの上なく素晴らしい彼らの欲望の的であるアイルランド人【彼らの妹イシーのこと】を彼らの間にもっている。彼女、彼女、あの娘をだよ！しかし何に君は流し目を送っているかね。流し目なんか送っていないよ、申し訳ないが。私はきわめてままま真面目なんだ。

今某所に【トイレのこと】行きたいと思ってはいけないかね。構わないよ、残念だけれど！こんなに早くからかね！あの刺されたような熱い感覚！1人落ちこぼれたからといって責めないでくれ、よくある滑稽な話だから。ここからだと、どこであれサラ・プレイス【ダブリンの1地区】の、排尿の出来るところに行くのに随分と歩くぞ（何と可哀想なことか）。まさにそのとおりだね！我が国最初の国道である1001号線を描き出しているサラ・プレイスのあの情景に賞賛の気持ちをもってほしい。聖シルウァヌスが、聖別された彼のつま先をほとんど洗うことのなかったあの川の浅瀬を見下ろすことになろう。その川にはワニがいるので、背中を見せてはならない。ついには顔が真っ赤になってしまうだろうが！注意しろ！目を開いておけよ！これには心を奪われてしまうからな！君が塩壷をひっくり返すのではないかと心配だ。耳も口も不自由な私はそうするだろうが！（571）この輝かしい跳ねる波のような光！これをどのように歌にしたらいいのかどうか教えてほしい。そうした光を求めよ、探し出せ！その光は公園の近くにある明澄な泉から生まれ出ている。その泉では、耳の不自由な者も色々なものが混ざりあった音を耳にすることが出来る。親しみを感じるところだ！何と澄んでいることか！そしてその泉は魔法の呪文を、そこに浮かぶシュロの木の葉や文字型の枝にかけている！ドラゲット【インドの粗製絨毯】風の幹、木々に縫い付けられた葉！それらが形作るタントラ教徒のスペリングが君たちに読めるか。学校の女教師の援助の元に私は読むことが出来る。楡の木や月桂樹にはこのやり方で親しげに呼びかけ、それからメッセージを受け取っている。松の木々が生えているところで、トキワガシの木の小枝が形作るルーン文字が私を出迎える。そうだ、彼らは私を、シダの垣根に囲まれた、悲しげな水辺へと連れていくであろう。そしてこの場所の別のところには、彼らの歌に歌われた礼拝堂があり、この礼拝

堂に対する私の賞賛の言葉が度を越したものだと、君たちは思ってきたのだ。アア、だが、しかし！そうだ、悲しい思いをしているイゾッドは？ 私に、私の貴重な魂に語ってくれ！ アア、私の心は悲しみにあふれている。私の悲しみの回廊は、その修道僧のフードをつけた頭を垂らしている。死への悲しみ、私の魂の暗い死の世界への悲しみはいかばかりか！ その死の世界の冷ややかさ。しかし、見よ、色白のキスしたくなるようなイゾッドは、下着をつけると陽気で、スカートをつけると初々しく、お辞儀の仕方は純真、胸は 2 本のボタンの花のよう、つま先が気持ち良さそうに横たわっている！ 私はまた操り人形のように、急いで地下牢のような礼拝堂【トイレ】にそっと行かなければならない。アイルランドよりはいいところなんだけれどね！ しかしどうか、やってきてくれ。気楽にやってきたまえ！ アア、安らかに、ここは天国だからね。アア、我が酒飲み氏の王子殿よ、一体私はなな何をすればいいのかね。我が親愛なる者よ、私の耳に届くような、人生についてのため息を、何故君はついているのか。そのふくれあがったため息のあと、嘆きの言葉を果てしなく口にしながら。私は決してため息などついてはいないよ。ただ、サラ・プレイスでのすべてのことを私は本当にざざ残念に思っているのさ。聞け、聞けよ。私は今出しているのだ。もっとその声を聞け！ ずっと聞いているよ。馬の咳のような HCE の声を。妖精 ALP の密かな舌足らずの声を。

――彼は前よりも静かになった。

――法的に資格を持っている。配偶者に対する権利を。野獣ではない。洗礼の権利により。彼ら 2 人は一心同体となろう。持って持ち続けよ。

――シーッ！ 行こう。寝息を立てている。眠り ...

――早 ...　娘 ...

――明けゆく豊かな朝の色合い。目覚め、起き、明らかにせよ。犠牲に備えよ。

――待て！ 静かに！ 耳をすませて！

というのも、我々の心に巣食う地下世界の敵が、猛烈な勢いで絶え間なく活動しているからだ。体の中を流れる血管でも、死ぬほど痛い虫歯でも、胸の神経節でも、（572）首の付け根の窪みでも、足下でも。指をかじっていた厄介な小僧が、父親を背後から歯止めなく打ちのめすのだ。墓が彼らの道具となる。若者たちは、目上の、彼らのドアをノックして様子を見にくる親たちを叩きのめすことに間もなくなろう。娘たちは、彼女たちの土台となる親たちの上で、ダイヤモンドカットを見せびらかせながらはしゃぎ回るであろう。そして他の世界に赴くであろう先祖となる親たちのための墓の溝を、きちんとコテを使って塗りたくるであろう。あなたの棍棒に一票を！

――待て！

――何を！

――彼女のドアが！【door】

――開いているの？【Ope?】

――見ろよ！

――何を！

――注意深く。

――誰を？

良き生活を送れ！ 良き生活を送れ！ ウルフ・トーン【19世紀初め、イギリスの植民地支配に抵抗するユナイテッド・アイリッシュメンの設立者】のように！

私は【上記の会話が】聞きとれなかった！ 彼女の娘【dorters】が開ける【ofe】だって？ 誰が開けるのか。彼女のイヌイットの娘が希望している【hope】のか。誰が希望しているんだって？ 言ってくれ、教えてくれ、すぐに言ってくれ！ すぐに！

みんなで考えてみよう。

【自分の】代理人である、「尋問官である自己の分身」が、我々にこうした難題を突きつけている。

ホヌフリウス【HCE】は退役した元上官であるが、好色ですべての女性に不誠実な誘いの言葉を投げかけている。彼は添い寝の権利を行使して、処女のフェリチア【イシー】と純然たる不貞を犯したと考えられている。そしてまた、2人または3人の兄弟妹愛の持ち主であるエウゲニウス【ショーン】とイェレミアス【シェム】とも不自然な交接関係にあると考えられている。ホノフリウス、フェリチア、エウゲニウス、イェレミアスは最低のレベルで血を分け合っている【近親相姦的関係】。ホノフリウスの妻であるアニータ【ALP】は、侍女のフォルティッサ【ケート】から次の話を聞いた。すなわち、ホヌフリウスが自発的に罰を受けようと、奴隷のマウリティウス【サッカーソン】に指図して、ホヌフリウスに対抗する商人のマグラウィウス【マグラス】を駆り立て、アニータに貞操を捨てるよう求めさせようとしたと、神をも恐れずに告白したというのである。アニータは不義の子であるフォルティッサとマウリティウス（この仮説はウェアーのもの）から次の情報を受け取った。つまり、マグラウィウスの教会分離論者である妻ギッリアが、ホヌフリウスの擁護者であり、イェレミアスによって墮落させられた不道徳な人間バルナバスの訪問を密かに受けているということである。ギッリア（色覚異常であると、ダルトンは主張している）は、ポッペア、アランチータ、クララ、（573）マリヌッツァ、インドラ、イオディーナと不適切な関係を持っていて、ホヌフリウスに（ホリデーの見解では）優しくされ誘惑された。そしてマグラウィウスはスパイを使い、エウゲニウスを誘惑したいと思っている万年の助任司祭、一般的にチェルラリウスと呼ばれているミカエルと、以前アニータが二重の神聖冒涜を犯していたことを知る。マグラウィウスは、もし自分に屈さなければ、また要求した時に婚姻の義務を放棄することでホヌフリウスを裏切ることがなければ、4人の穴掘り人夫であるグレゴリウス、レオ、ウィテッリウス、マクドゥガリウスに手渡すために、【アニータの娘の】フェリチアを手にしたいと思っている、野蛮人の典型であるスッ

ラ（12人の傭兵から成るスリワーニ団の首領）を焚き付け、お前に対して淫らなことをさせるぞ、とアニータを脅す。アニータはイェレミアスとエウゲニウスから近親相姦的気配を感じ取ったと明言し、スッラの野蛮な行動と12人のスリワーニ団の欲得を抑えるために、また（ギルバートが当初ほのめかしていたように）ギッリアの死後ミカエルによって改宗した際、マグラウィウスに対するフェリチアの処女性を救おうとして、彼女はホヌフリウスの淫らな要求に屈そうとする。しかし彼女は、彼の婚姻上の権利を許すことで、エウゲニウスとイェレミアスとの間でとがめるべき行為が引き起こされることを恐れている。ミカエルは以前アニータを誘惑したのだが、ホヌフリウスの言うことに屈しなければならないことから彼女を救う。ホヌフリウスは、巧みなテクニックを使っても極点に達することが出来ない時にはいつでも、肉体の健康のために、39種類の異なるやり方で交接するのだと公言している（恥ずべきことだ！と権威をもってギラルデュス・カンブレンシスは主張している）。アニータは困惑するが、ミカエルはアニータの体をさすりながら――経験から彼女はこれが無駄であることを知っている（ワディングによれば）――、たとえ彼女が偽りの善行を行っても、教会裁治権者に彼女の問題を持ち出すのは差し控えると伝える。しかしながらフォルティッサは、グレゴリウス、レオ、ウィテイリウス、マクドゥガリウスの一まとまりになった声に仕向けられ、ホヌフリウスが受ける厳しい自己懲罰の模様を描いてみせることで、またマウリティウスの死んだ妻カニクーラと、彼女に捨てられ悔やんでいる聖職売買者スッラとの腐敗した関係（きわめて恥ずべきことだ！）について言及することで、アニータに警告を発する。ホヌフリウスは主導権をもつのだろうか。アニータは服従するのだろうか。

Lax【サケ】を lex【法律】と置き換えるように、ある言葉を法律用語に転用すれば、その言葉の意味は増殖する。故ケープ対故チャタトンの訴訟のように。

紳士淑女の方々、次の一件はおそらく民事法廷において、ウィリアム・ウッドの産業【銅貨の鋳造のこと】が関係する、歴史上生じたあらゆる事例の中でも最も一般的に見られる一例である。（574）ドイル・オーウェンは（フィン・マクールもまた自分について思ったことだが）2つの名前が載った共同名義の預金口座が存在する限り、互いに責務を果たさなければならないことが定められていると考えている。タンゴズ株式会社と登記されたブレールフック・アンド・ウォーレン社という外国企業を、ある所有者の物品を売却したことによる所有権侵奪の疑いで、オーウェルは法廷に召喚する。異教徒教会緊急基金団体の管財人の要請による訴訟は、その退職した元公務員の管財人が起こしたもので、支払われるべき納付金の支払いを求めるものであり、ドイル判事及び一般陪審員によって審理される。証拠書類が支払額を示しているこの債務に関して疑いはなかった。弁護側は既に支払いは有効になされたと主張した。基金側の管財人ジュクンデュス・フェクンデュス・エクゼロ・ペクンデュス・コパーチープはそれに反論し、その支払いはウィルヘルム・ハールズ・クロス名義の通常の署名がなされた横線式小切手が、証憑の写しが添えられ、債権者に提供された形で行われたのだが、会社の名義は共同名義になっているものの、この小切手はこの主パートナーが振り出したもので、小切手に関わる預金は彼のみに適用される形でなされており、効力のない支払いとなっていると論じた。銀行という国家の吝嗇家（タンゴズ社の資産価値については、現在完全と言ってもいいほどに4者の主な株主の手の中にある）は、その負債に応じるだけの蓄えはもっているものの、小切手の支払いは拒否したことをつまびらかにした。この結果、管財人のコパーチープは、このことについての資金のために、彼のクライアントの公証人と交渉して、報酬に関して、管財人と受託財団との間の法的補償金を感謝の気持ちをもって彼から受け取ったのであった。それ以来、水溶性の良質素材のピンク色の、DUD1132 の文字が浮き出て見える、人物像や顔面がうまく描かれているこの小切手は、この国において39年以上もの間、ライバル会社であるパンゴ社の株主たちの間に出回った。その一方で、廃止された1ファージィング銅貨の方は、固い硬貨という形であれ、流動的な現金という形であれ、バーのカウンターで回ったり揺れたりすることもなかった。陪審員は（気難しい顔をした12人の体のがっしりした者たちであり、彼らは全員奇妙にもドイルにあやかった名前をもっていた）、当然のことながら全体としても、また個別的にも、意見はまとまらなかった。そして敵意のこもったこの裁判官は、陪審員全体の意見の不一致に対してそれとは一致しない意見を表し、彼の権限を遥かに越えて、この地味な会社に対する差し押さえを命じた。 いかなる職務執行令も、所得金額を減らした2人のうちの前者であるブレールフックを探し出すことは出来なかった。というのも彼は以前の殉教者の時代にさかのぼる、（575）古の支払い猶予の状態【死亡したということ】となっていたからである。そして唯一副パートナーであるバーレンのみが、申し立ての通知に基づき、また暫定的命令による申し立て送達のあと、男性陪審員の中から姿を現したのだが、この人物は元来プロレタリアート階級出の完全な泥炭地の女性であり、未だドイルの支配圏にある【一群のドイル・コテッジズの1つとされる】コピンガーズ・コテッジ2号に住む、アン・ドイルという女性としての名前をもった、立派な称号をもつ人物であることが判明した。中に入ってきた変わり者の女性ドイル（アン）は、残念そうに陪審員席を離れ、長い間悲嘆にくれながら証人席についていたが、彼女らしく気を取り直して横線式小切手について次のように快活に抗議した。自分は怒りが沸点にまで達するほどに失礼な要求に応えて、交付の日から9ヶ月後にブレールフック個人名義のあらゆる手形のうち最重要なものを、たびたび何の問題もなく割り引いて買い取り現金化したことがあると。また彼

女は困難を伴いながらもきわめて平明に、確信を持って流暢に次のように説明した。即ち、時々ピンク色になる（笑）、それ以上にたびたびレモンクリーム色になる、様々に色が変わるエナメル質の雉の模様のついた、またマシュマロの模様のついた、非水溶性の白紙の、手形名宛人と支払先が記され送付された譲渡書類に、自分は持参者として、様々な支払い者―手形振出人が記された小切手の受取人として、何度も署名裏書きし提示するとすぐに支払いを受けてきた。たとえほとんどの場合、こうした支払い者―手形振出人は、街のあるいは郊外の名の通った詐欺師であることが新聞によって判明したとしても、と。彼女自身が要求した証人は、その時彼女が携帯していた楽譜に、あることを書き留めたかどうかを彼女に尋ねた。そしてこの文書が法廷で目を通すために裁判官席に手渡されると、コピンガーの人形――彼女はこう呼ばれていた――（即ち、スコットランド系ケルト人の、贈り物としての養子である子供）は、この時自らを納得させるために、また1つの全体的解決策として、この真新しい裁判所の小部屋の中にいる裁判官、陪審員、その他あらゆる人たちに、やむをえず明日、ウィル・ブレックファースト・スパーレンという新しい体制で、原告である基金の常勤管財人ペピジ氏と提携することを提案した。というのも、他の裁判記録による裁判所の事実認定が行われている時、彼がこの上ない興味を彼女に対して示したように思えたからだ。しかし、この提案はジェレミー・ドイル判事によって却下された。彼は当然のこととして判決を保留にし、疑いもなく重罪とした下級裁判所の判決を覆し、判決に不満を抱いたこれまでの陪審員と同じくらいに公正な、陪審員席にぎゅうぎゅう詰めになっている12人の陪審員の不同意をかわして、いらだちが末端にいる陪審員にまで広がる中、（576）リフィー川の陪審員たちに次のように言い渡した。彼らが免罪と評決を下した女性は、実際には生まれつき契約の資格を持っていない（カリフ・オブ・マン対オドゥル会社間の訴訟判決に基づき）、こうした時、こうしたいきさつでは、こうした場合では、多くの売買契約法は適用されないのであり、それ故最終的には、法律上遺体には財産は存在せず（ハル・キルビライド対ウナ・ベッリナ間の訴訟判決に基づき）、それ故ペピギの契約は全くの戯言であり（爆笑）、ワレムは返金なしですますことが出来ると考えられる、と。君はペピギと契約を結ぶかね、結ばないかね。ナンシーのためでもなければ、どうするであろう！そしてピユー、ピュピュ、ピュー。

――この子は睡眠中にため息をついた。

――戻りましょう。

――目を覚まさないようにして。

――姿を消しましょう。

私の年端の行かない子供が夢の翼を広げてさまよっている間に、体を折り曲げながら寝相を悪くしている間に、私は彼らを恐怖からかくまうであろう。大きく素晴らしい長い間続く力強い男の中の男らしさによって。私の子供を見張るつもりだ、私の美しい男らしさで。

――ベッドに。

リーズとヨークが異なるように互いに異なる道、塵も積もれば山となるほど数多くの道、ワンダーランドたる場所に行くための一続きの道、こうした道の出発点から終点までを、まっすぐに伸びた横断路や螺旋状に曲がりくねった散歩道などの出発点から本当の終点までを生み出した、過去を通して世界を見ている、広い世界で唯一の賢人たる、探索者であり立案者である、棟梁としての偉大なる建設者、そしてまたモグラ狩りをする者には丘陵を、最初の夫【アダム】には家庭を、卑劣な者どもにはその背後に危険を、ダブリンには馬力をもたらす、多様な心を持つ、好奇心にあふれ、偉大さに至ろうとしている者、前者の男に励みを与えよ、後者の女の心を躍らせよ、彼らは我々の最初の祖先なのだ。ペニスの神ボギー・ボバウと、その連れの最も狡知に富んだ寝椅子に横たわる雌馬とは。偉大なるマスター・フィネガンと、その連れのフェニックス・パークとは。最も正確なところを言うと、男の方は耳が遠いし、女の方はがに股である。あなたにお願いするが、夜回りをするために使う階段を下りて、最低ランクの遊び仲間である【仲が悪いこと】彼らの継子たちとともに、陽が昇る時に、彼らに輝きをもたらしたまえ。似非自我の酷似性、分身性という迷路に陥った【子供たちの顔つきがそっくりだということ】彼らを導きたまえ、名前が多様なあらゆる放浪者から、両側から彼らを隔てたまえ。忍耐の喪失から彼らを救いたまえ。そうすれば彼らは権利を貫き、制限なき義務に注意を払う。新石器時代の鍛冶屋とマドレーヌ文化【後期旧石器時代の最後の文化】の風媒花の種とは。（577）偉大なる竜のような夫とか弱い素敵な妻とは。黒水晶の男とレタスのような乙女とは。栄光に包まれた王たる人物とその連れのちっちゃな女王とは。策略にたけた虎と優雅な白鳥とは。動脈のようにかくしゃくとした彼と静脈のように熱情的な彼女とは。この純粋な白い砒素とそれと一体の混ざり物の蒼鉛とは。大罪とそれと一体の微罪とは。自由に貸借出来る土地とそれと一体の第1抵当とは。むっつりとした水脈占い師と慎み深い浸礼教徒とは。反戦主義者と臆病者とは。古代スカンジナビアの血と心をもつ者と洗濯可能な羊毛とは。大いなる楽しさとそれと一体のこっそり感じる楽しさとは。大トリックとそれと一体のトリックのもつ落とし穴とは。ソロモンとシバとは。盆暗と小心者とは。現金を払う者と持ち帰る者とは。我々が夢に見たすべてと我々がこわがったその一部とは。海賊とその連れ合いの夫人とは、王国産の黒ビールしかしながら常なる清水もまた。宿屋の主人と愛らしい顔つきの人物とは。長靴下形の岬と河口とは。釣り銭を叩きつける者と長枕を打ちつける者とは。もうもうとした煙草の煙と舌なめずりしてしまうレースティー【スイスの料理】とは。人類の渡し守とそのそばにいる社会のリーダーとは。人気者と娼婦とは。猫背と小妖精とは。原始の湖・荒れ地とそれと一体の泥の巣穴とは。

秘密の漏洩と人間性についてのきわめて根本的な、しかし優雅さにあふれている悪態とは。プロデューサー王とそれと一緒の映画女優とは。彼の主張の根拠と彼女の心の誇りとは。ぞっとするような崖のカラスしかしながらクークー鳴いているカワラバトもまた。昼間のオーディンとベッドにいるヒガ【オーディンの妻】とは。夫と妻とは。その結果彼は彼女という人間に気づくかもしれない。その結果彼女は彼と離れるかもしれない。その結果誰かが彼らを痛めつけるかもしれない。その結果彼らはすぐによりを戻すかもしれない。時々、繰り返し、定期的に。彼らはニーヴェスからウィルシーズまで、ブッシュミルズからイーノスまで、ハーレムからゴアーズまで、スキティッシュ・ウィダスからハース・オブ・オークまで、ヴィア・マラを通り、ハイバー峠を通り、アルプスの山道を毒づきながら進む。ぼんやりとしか見えない、あってもなくてもいいような田舎の道を通って、マンドレー【旧ビルマの都市】のような街を数多く通ったあとで。まず隣の場所に行き、ついには心地よいケリー州まで行った。どちらも美しくもあり平凡でもある公道と脇道を通って。黄色の桜の咲いている道を横切り、まるまるとした紫色のカボチャの畑を過ぎて。その一方で裁判とかかわり合い、打ちのめされながらも、アーサー・シート【エディンバラの丘】の下の焼け付くような長い道路を、彼はダービー州へ、彼女は街に、就寝時刻まで。競技場の中や菩提樹の木の下を通って。トゥールーズの道をゆっくりと歩きながら。チープサイドの修道院の庭のそばを通って。修道士と裁縫婦は絹のような袋用の麻布で作られた衣服を着て。奇妙な夢想家は。奇妙な演劇人は。奇妙な悪魔は。剽窃者である日雇い労働者は。最も親愛なる道化役者は。最も厄介で最も陰気な者は。というのも、このストラングフォード【北アイルランドの潟。17世紀に入植地となる】への入植者たちが不平を言っているからであり、またこのカーサー【ローマの牢獄】の重罪人たちが足を濡らさないように進んでいるからであり、またこのリバティーの若者たちが、ブツブツ言いながらぶっきらぼうに、ドサッと丸太のような眠りに落ちるところに行こうとしているからだ。

待て！身動きしなかったか。いや、しなかった。じっとしているよ。ベッドへ！彼はちゃんとここにいる。戸外の道路で吹いているただの風だよ。(578) 足下を震えさせて、いびきから目を覚まさせる風さ。

しかし。神の意志によって、彼はどのような人間になるのであろうか。この司教冠を冠った者は。酵母菌の王は。聖油を塗った、白髪の入った金髪のカツラをかぶった、口の中にまことしやかな話を入れている、カスピ海に見られるぜんそく持ちの、立派な体躯をしたこの男は。ファラオとレビ族の名残をもつこの男は！ディック、ジル、のっぽのトムなどあらゆる人間になりうる、まさにフィン・マクールが人間化したこの男は。彼が身につけているのは、ただ保温用ティーポットカバーのような帽子と、エンドウ豆のさやの様なダブレットとともに、プリッス織りのウールのシャツだけである。また足に二重に幅広の靴下をはいている。というのも、たっぷりとしたフリースの毛布の間で、魚籠の中の白いシャケのようになって、温かな眠りを常に確保しなければならないからだ。したがって彼は我々の居酒屋を営む北方のミトラ【ペルシャの光の神】になりうるのだろうか。いやはや、厄介氏よ、あんたは随分元気そうじゃないか！この困り者は民族分離主義者のチャンピオンだ。何と器用な人物であることか、何と愚かな人物であることか！彼はダブリン居住者にとって悪魔の個人的手先だ！一言で言えば、愉快で上品ないい奴だ。彼は家族を束ねている。

でもあの彼の脇にいる、小柄な女は誰なのだろうか。彼女は踊りたがっているのだろうか。ほんの少しだけ踊りたがっているのか。あの扱いにくい裾のために彼女はよろけそうになっている、しっかりしろ！彼女が輪を描いているランプの、その煙の輪の行方を見よ！いや、あれは子供たちの汗を拭っていた愛すべき夫人だ！結構、結構、その上にまた結構！雷雨のような女だ。扱いに困る女だ。誇り高い亭主をもっており、香しい香りを発し、子守唄を歌う唇は震えている。そして七旬祭に見せる臀部は情欲をそそる。T字部分が素晴らしいやんちゃで陽気な女だ！青白い顔をした娘たちにはサンライト石鹸を、亭主のパブの常連客にはラインゴールドビールを売っている。彼女はアイランドブリッジで洒落者たちにキスをすることに倦み、ついにはボーンマスで一線を越えた。今彼女は憎しみに至る昇降口のハッチを閉め、その下に亭主の頭を埋め、古からの愛の道に亭主の運命を閉じ込めてしまった。そしてまさに彼女は昔と変わらず、半ペニーの価値しかない肉汁となっている。茶髪に染めさえした。

彼らはどのルートを通っているのか。何故だ？シティー内のエンジェル通りか、アーメン・コーナーか、ノースウッドのサウスウォークか、ユーストン西部か。向かい風のそよぎもない中、鎧下のような上着を着た、人の心を和ませるこの男と、汗を拭っているこの小柄の主婦とは。彼らはダイヤモンドに飾られた新婚旅行から戻っているところだ。身の丈が巨人並みの男と小妖精の背の高さの女とは。牝狐と悪魔の性格をまとったこの者たちは。一方が進み、もう一方も進む。人類最初の日に現れたこの男と、私とあなたのおしゃれ女とは、「光の市民」とその連れの彼の「活力あふれる川」とは、国王陛下とその連れの女王然とした伯爵夫人とは、聖ステファノの継子とその連れの彼の心の妻とは、(579) 無事結婚1周年を迎え、贈り物として受け取った豚肉の薫製と、それと一体の石落とし【土台石に乗せた相手の石に石をぶつけて落とす子供の遊び】用の石とは、登ってきたように階段を下りている。一文字幕や、糸で刺繍された袖幕の下を。階段に仕掛けられた罠を避けながら、滑りやすいところを滑りながら。自動車道路を歩く危険を冒しながら。後悔の表情を見せながら。エルダー・アーバー

からラ・プイレまで。時間を戻らせることを避けながら。ダイヤモンドのように。優しい気持ちで。気分が変わりやすく、異常に興奮するHCEと、その連れ合いの世話好きでのらくら者で自由闊達に散歩しているのんきなALPとは。科学が援助出来る、また芸術が付け加えられるあらゆるものを考慮に入れることなく。庭の門にカギをかけておけ。犬に気をつけろ。弱き者【女】にはガラクタをただ1つ用意せよ、男には両刃の斧を用意せよ。放射線には速やかにもぐりの医者を用意せよ。あの聖書は新しくしておけ。【チップ用の】小銭を皿の上に置いていかないくらいなら、これから投函する郵便物をポケットに入れることだってないであろう。乞食は外に出せ。くたばってしまえ、この薄のろ野郎！ 坊主と彼らの支配には気をつけろ。魂を磨け。奇跡に身を委ねるな。請求された金に対しては先送りするな。制服を尊重せよ。国王と国王の多血症のために礼服を保っておけ。女王と女王の宮殿に飛んでいかないよう鳩の首に紐を括り付けさせよ。持たざる者を嫌ってはいけない。財産を共有すると安寧は損なわれる。悪魔を埋葬するために金を抑えよ。私の時間はドラフトビールにある。自分の金で自分のビールを飲め。自分自身を愛するように自分に貼られたレッテルを愛せ。食べる前に儲けよ。飲んだあとは働け。明日を信じよ。自分の行動方針に従え。自分の価値を引き出せ。金持ちからは買うな。友人に売ってはいけない。今後言葉を捨て、曇りのない心で祈れ。軽食に頼れ。私の前では悪ふざけをしてはならない。説法の練習をしろ。腹部で考えよ。鼻【好奇心の象徴】から取り入れよ。ただ信仰によるのみ。季節の天候【に注意】。ゴモラのようになる。ソドムのようになる。多くの者が私のサイドテーブルから食す。我が国ではすべてがうまくいく。エアウィッカーの妻となりうる者にダンスを教えてもらえ。

今や彼らの主は彼らを助け、彼らの降下を容易にする！

というのも、彼らは出会い、仲良くなり、ベッドをともにし、結びつき、手に入れ、与え、育て、駆り立て、母国を窮地に陥れ、人々の向きを変え、彼らを海に留まらせ、植え付け、略奪し、我々の魂を担保に入れ、郊外から何ポンドも奪い、戦い、緊張関係にあるかのように振る舞い、我々に彼らの罪悪を遺贈し、松葉杖をついて足の不自由な歩き方をし、長患いの人々の心を密かに傷つけ、1人の熱い思いの女が心を洗浄している中7人の尼僧の心を操り、コートを裏返しに着、素性をごまかし、最初の日の日課を学ぶことなく、人と交わろうとし、うまくやって金を貯め、不当に利益を得、自分自身を汚し、(580) アーノッツデパートに押し入り、重荷を背負った者たちのために滝に橋を渡し【溺れさせること】、遺産相続人の死によって返済債務から逃れ、地域の混雑の原因となり、ペテロの木挽きのいるところに古い丸太を何本も転がし、パウロの港に新たに木屑を撒き、ラケルの牧草地を使ってしまい、ドミニクの塀の割れ目を槌で打ち、車座に集まっている癩病患者を睨みつけ、80歳の老齢の者をからかい、石油を突き当て、警官に無理難題を押し付け、トビアスやザカリーをあざ笑って彼らの面子をつぶし、やめることをやめ、続けることを続け、人に酒を煽り、人に鎮痛剤【酒？】をついでやり、客に平手打ちされ、ムラファリーの戦い後に彼女の家の中庭で死んだ時、彼はポール【国旗？】の下で死んだのだ。ファラオとその連れの妖精、この2人を横たわらせたまえ！しかし彼らはくねりながら戻って行く、男の方は不滅の命をもっているかのように。悪魔の首領であるベルゼブブと魅惑的な悪魔とは、手に明かりを持ち、兜を高く上げ、寝場所の茂みの暗闇を覗き込み、そしてついに、この場の終わりを告げる時がいつまでも打たれ続ける。男は日々を描いた本を閉じ、【女の手を】握り、女は旅の終りの歌を歌っている。ペリウィンクル【タマキビ貝】は呼び、セルスカー【アイルランド、ウェセックスにある修道院の名】は聞いている。（アア。シェムよ！ アア、ショーンよ！）そして優しく陽気なイゾルデは、悪賢くも、夜の別れの言葉の中で、フィネガンに追従的な文句をささやく。再び罪を犯すために、厳格な祖母に不平を言わせたり、再びにっこりと笑わせたりするために。この間最初の灰色の日の光が銀色になりながら忍び込み、馬乗りになったり、転げ回ったりしている彼らの喧嘩をあざ笑う。

彼らは凍えそうな階段の下に近づく。凡人ではあるが、以前から大きな会社の営業許可証をもち、水物を扱う彼の店舗で9人分の酒場の主人の力量をもつこのワイン商人HCEと、足を引きずりゆっくりと歩いている、眠たそうなこの覗き屋の連れ合いALPとは。彼女は指環の奴隷で、その指環はその手を悩まし、その手はランプを揺らし、そのランプは歩みをほのかに照らし、その歩みはこの商売人の背骨をベッドへと向かわせ、この商売人はフェニックス・パークでならず者キャッドに出会い、そのキャッドは彼の未亡人の耳をくすぐり、その未亡人は司祭に予備情報を伝え、司祭は無償奉仕者の献金皿にそれを乗せてあちこちに手渡し、そしてついにこの話はパースィズ・レルの耳を打ち抜き、レルはオコンネルに膝蹴りを食らわせてベッドから飛び出させ、オコンネルはバークの肩をつつき、バークはオハラに頭突きを食らわせ、オハラはその大道芸人の目を覚まさせ、大道芸人は観衆の感情を高揚させ、観衆はジグを踊っている連中を活気づかせ、詩を謡わせ、その詩はマリン岬からクリア岬、カーンソア岬を経て、スライン岬までの、アイルランドの各島の各区域に洪水のように押し寄せ、淫らで俗人のあらゆる聞き手のポケットに入っていた金を空にし、彼らを笑わせ、彼らはオスティーが創ったその詩、バラードを購入したのだった。

(581) ともかくも（この件は厄介で危険である）、サリバンが生やしていたようなぴったり張り付いた口髭を生やした名士たちは、名のある由緒正しき家長である彼に、反目する人間としての、復讐心に燃えた、侵略者とか異邦人とかいった侮辱的な言葉を投げつけ、中傷的な言葉を大声で浴びせなかっただろうか。HCEとスワニー川たる彼女

自身とエアウィッカーの家族は、協力しあいながら地味な生活を送っていこうと思っていた。（大いなるレイリーは最悪の人間だと）ほえたてながら。箱船から出てきたこの男の野放図な飲み方を見ると、確かに彼はコーンウォールのマルケ王の放屁ほどの価値もなかった。彼の妖精がもっているオマルを見れば、彼女はちょっとした変人の、年のいった淫らな女であることがみてとれた。そして今この時、彼らはフィン・マクールの最も豊穣なブドウ栽培温室から、峠で相携え盗賊を働きながらも、やみくもに盲滅法に自分たちの道を進み、大樽をもってやっと家にたどり着いたのだ。そしてそこで互いにいさめあい、冷たく軽い食事を求め、切り裂きジャックへのあるいは軍神マルスの冷厳さへの極度の恐怖を捨て、元気になったのだ。

彼ら【4博士】、我らが通常の交渉人たちは、彼を嫌っていなかったのだろうか。まだ発生していない雷鳴である彼を。その言語を主が創造したいかなる人間も理解出来ない彼を。妻の支配と自分の権利を主張する気持ちとの間で揺れている彼を。あらゆる女性に受け入れられている男らしい彼を。しかし目立たぬところでも馬に乗る上流階級の者たちに仕えるメイドのように、語頭の h の音を発音しない彼を。アア、どういうことなのだ！何と、何と！実に彼女の股間だ！本当に彼のペニスだ！この時彼らは全員、まさにこの朝そこでじっと見つめていたのだ。陰気な幸あるロバ、アウルス・プラウティウス【ブリテンに侵入した古代ローマの将軍】とともに脇道で。そしてそれから、瑣末なものも彼らは見ていた。彼らの露営地【ベッド】を！彼の記念碑【ペニス】を！ホウ！これ以上このこと【HCE と ALP とのセックス】については言うまい！申し訳ない！私は見たのだ。申し訳ない！こう言って申し訳ないが、私は見たのだ！

ともかく我々の間でも（教会の週務の責任者も、このことで大いに文句を言っているが）、万人周知のもの【パース・オライリーの戯れ歌】が湧出していないだろうか。こうしたものは世界各地のあらゆる人が言っているように、新たな汚辱や昔の裏切りを経験してきた、古代ギリシャ・ローマ時代の古の祖先から、今の乱暴狼藉者、治癒することのない難聴者に至るまでの人たちにとって、最初は効果があったものの、結局は純粋なる形態をもった複雑なるものとして常時聞かれるものになったのだ。そしてそうである限り、この老人に似た別物【戯れ歌に描かれた HCE】、とはいえ全くの別物ではないもの、依然としてしかしながら完全な同一体ではないもの、しかしながら依然としてまさに同じもの、ともかくも更に繰り返されたものは、少しの違いはあれ、今日の早朝というごく最近まで、それにもかかわらず常に受け入れられるようになっていたのかもしれない。

（582）しかし彼は彼らをもうけたのだ。

それ故どうか、大法官庁と最善の掛かり合いをした、しゃがれ声で人をなだめすかそうとする HCE に対して、わずかでも大いなる感謝の気持ちを捧げようではないか。悪魔がパンチを食らわすのであれ、天使が同乗してくれるのであれ、彼がいつまでもゆっくりと毒【酒】を飲み、巨大で広大な裁判の地に彼の家族のために赴くように、またこの家族が 1 から10まで彼らの株主であるこの無法者たちの言うことを、ありがたくも聞かなくてすむように、彼らとともに願いながら。この者たちは並ののしり文句ではない言葉で、彼らの子孫とともに、恥知らず、ペテン師、金儲け主義者と言って彼に毒づき、過ちを犯した男の試訴に売春婦がかわっている限り【常に、ということ】、偏見の上のカビの上にアオカビを生やそうとしているのだ。

好むと好まざるとにかかわらず、我々は彼ら子供たちをもたなければならない。彼ら子供たちもまた、我々が彼らのいるべきところにいるが故に、我々をもたなければならないであろう。万事流転の上に断片的な生を営むことで、彼らにせよ我々にせよ、生命界において常なる自己が大規模に抹殺されることを逃れる希望はほとんどない。遺憾ながら我々は、このように実際に、我々を征する悪臭に満ちた死を前にする時、次のことに注意を払わなければならない。つまり、我々は、愚者のあなたがもうじき最後に凝視するものを、数多くの鏡のある、とこしえに果てしなき世界に通ずるメガロン【古代ギリシャの王室の居室】の中で、自制して待ち受けているのがよいということだ。果てしなき世界を。そういう訳で現れたのは陽気な . . . ダイフリンに居住しており . . . 兵士がもっている剣のような、速く逃れることの出来る、ハンマーのような脚をもち、そして . . . そこには金髪の若い . . . この者は彼女のためになるように行動し . . . そして彼女は言った。静かにお眠りなさい . . . 僕の城で時間をつぶす気はないかね . . . そして彼は西の遠い土地で彼女の心を和ませ、彼女がメイズン岬からヨールまで行く準備をしてやった。このようにして戦士の長であるハンフリーは頑張り抜いた。彼女は内気でかわいらしいままである。

さもなければ彼のことを教えてくれないかね！あの赤ら顔はパトリック的苦行を受けるべきだ！いんちきなやり方で作られた、臀部が突き出たナイトシャツなど着て！バランスのとれた第 3 の立場から見てみよう！正面から見る卓越した見方だ。男色の HCE のことを見てみよう。不完全に男の仮面をかぶった女だ。ブランド品であるあの眉を尊べ。女が餌食となる！あのトール【北欧神話の神】は、あらゆる婦人を大都市へと誘う、ドルキー、キングズタウン、ブラックロック（個々人で判断をなさる方々【プロテスタント】、ブーターズタウンにはここでお乗り換えです！聖なるカトリックの皆さん、そのままお乗り続け下さい！）を結ぶ市街電車の路線のようである。実際、20樽ほども飲むレアリー王である彼は、自分の別荘を拡張するために、謀を巡らし、歴代の王たちを追い出した！今しばらくの間、彼を見つめていろ。（583）彼の半ズボンは、彼女の歩みについて行く、背筋をまっすぐに伸ばした彼の体躯の陰

で､赤ん坊用のぼろ布になるほどに風に吹き曝されている。活動中のビャクシンのようなまさかり【ペニス】はもち上がり、私の見るに彼は軍艦だ。哀れな小舟である彼女の歯はカチカチ鳴っている。彼女は苦境にいる！ このシバの女王は彼の雄牛ぶりに耐えているのだ！ 彼女の作り笑いは煙となって、後ろの彼女のかかとへとたなびく【後ろを振り返る】。彼女の部屋用の帽子が奇妙な形にすぐさまねじ曲がる、彼女のスリップが淫らに上がり、彼女の歩調が急ピッチになる、こうした2つのことが1度に起こることで､私は彼女の国を誇りに感じる。戦場は低い位置にあり、この戦いは彼らだけの戦いである。彼は彼の全く陰鬱な悪夢の上に乗っている、陽気なガレオン船【15-18世紀のスペインの大帆船】の水夫だ。巨人族と小人族。1対1で相手をファック！ ホウ、ホウ、娘は安らかに、安心して眠っている。そしてガニュメーデース【ゼウスに酌をしたトロイの美少年】である、左右対称の双子の息子たちは早々に床についている。しかし父と母は1歩1歩早足となる。ポースポロス【ギリシャ神話のエロスの息子】とプロセルピーナ【ローマ神話の冥界の女王】は。1対1が続く。

アア、何と素晴らしい、彼女の繊細で優雅なサーチライト【ランプ】は！ こうした影を鎧戸に落としている！ 当てもなくふらふらしているあの男は、これから起こること【セックス】が分かっている。あちこちでカメラフラッシュが光る。すぐにこの惑星の至るところで知れわたるであろう。嫉妬を伴う喜びの混じった高まる不安のように。惑星間を巡るうわさ話のように。日本人に食いつく中国の竜のように。東部で咲く灰色のバラのように。土曜日に開かれる彼女を讃える集まりが最も愛らしいポイベ【ギリシャ神話中の女神、ローマ神話中のダイアナにあたる】を悩ませている。ここでは洪水が起きている。救いなきアイルランドを襲う亜麻色の洪水が。リヴと彼女の美しさを隠さない者はいるだろうか【危険な美しさなので】。あるいは誰が彼女のバラのつぼみ【リヴィアの美少女としての美しさ】を買うだろうか【危険なので】。濃い黒色のバラのつぼみを、雪のように白いニーナ【アンのロシア語読み】のスロー【バラ科の低木】を。微乳のアンを。イチジクが落ちた【禁断の木の実をイチジクとする説がある】時【創世時】から運命が最後に下る【最後の審判】時まで、つかの間の結婚記念祭が毎年行われている。その間公園の警官はダブリン州の道徳を押しつぶすために、巡視を行っている。あの商人は面倒を起こしている！ さっさと金を全部払え！【もみ消すための警官が要求する賄賂？】といった具合に。

クックッ。彼女は笑いを抑えなければならなかった。夫の老いた大きな塊となった体についているペニスを見て。たびたび相手を上に乗せてファックする時、かくしゃくとしたウィロー王のように、盗賊にパンチを繰り出しているかのような勢いで、相手を痛めつける者の形相で、彼の全身は蝋のようになっていた。しかし熱して湿った額には、専制君主としての特徴が出ていた。朝の6時半過ぎであった。ランプの光は完全に傾き、彼女の中のペニスはひどく力を失い、全くの輪状になっていた。彼女は小言を言わなければならなかった。文句を言わなければならなかった。煙った暖炉の真上でメラメラと燃えている、小妖精のようなランプの芯のことを考えながら。彼のダブダブのズボンのトンネルのような裂け目を貫きもち上がっている、無作法者のフォーク形のものをちらっと見ながら、一般のあくどい棒使いが使う偽造の先端カバー【コンドーム】を足下に置いた時はいつでも。一方、この時彼は身を起こし、(584) 吃り、せわしなく身を動かし、気を落ち着けて、もし赤黒い上下に動く悪魔の睾丸をもっていたならば、朝の6時に調子を上げ、それが彼女の内部を喜ばせるのか考えていた。睾丸をはじきつつ、滑らかに入るように彼の先端部を鳩のような舌でなめながら、彼女は早く、早く、逝こうとしていた。この田舎者、この豚野郎、この猫背の金物商人！ マグラスさんをご覧なさい。【以下マグラスをもち出し、HCEを鼓舞している】この人は私を釘付けにした人なのよ。私のものを見抜く力への道を築いてくれたのよ。あなたがこの人とコイン投げをやってもこの人の方が勝つでしょう。富くじを買ってもこの人の方が当たるでしょう。それに引き換え、バラック住まいのこのブルドッグさん、この人よりも前に先取点をとってご覧なさい！ この人はダンディーよ。私はこの人が大好きよ。私たちはイースターの間中ずっと一緒にいて、ついには互いに共感が高まったの。魂の灰燼となった者たちに宣言して、この人の対戦相手となれるか確かめて！2人に代って3人になることは私にとって役に立つことなのよ。あなたにはこの人が、そしてまたあなたには彼女も役に立つの。気楽にいこう、戦場【セックスが行われているベッド】や、間欠的な喊声の恩寵によって、彼女の生まれつきの破天荒ぶりを目覚めさせ、彼がゴムを使いすぎて破裂させ、子供を作ってしまうのでは､という誤謬に彼も私もやがて陥るであろうから。この元気溌剌とした愉快な老いた男は､脚がずんぐりとし、タオル地の帽子はつばが広く垂れ下がり、趣味に合わせた靴下をはき、背中に英知のこぶをつけ、乳母のエプロンを着、支配性は紳士的で、プレイボーイとしての突進ぶりをもち、フランネルの衣服はウールの手触りだったのだが。そしてそうした彼は彼女の土手部を蹂躙すると、しっかりと抱きしめた乙女を相手にするように、彼女の幾多の罪と女の権利が同居するべき彼女のクリストスを、何遍も何遍も卑しめた。そしてこの時、見よ、早朝の奇妙な形の小屋の中の雌鳥が、コケコッコーと、そのペニスをあざ笑い始めた。ソウ、ソウ、イヤ、イヤ、彼女の雄鶏のそばでいつも鳴いているように（どうしてなのだろう。球がない、棒はもっているのに！）932回きっかり、朝のペニスが征服しようとしている時から長い間ずっと。

どうして我々のことを悪く言うのだ？

コケコッコー。

紋章を授与すべき永遠なる民衆たちよ。コッコー。ソ

ウ、警官から、警官に頭を下げる者たちまでの諸君。同じく、美女から美男までの諸君。無事に結合して以降の、こうした人物たち、及びこうした人物たちの愛する人物たちに対する読者の感謝の気持ちに、我々は喜んでお返ししたいと思う。ココココケ。男の読者にも、彼の女の友人の読者にも。この儀式が執り行われているこの住居では、彼という人物に対するアンの契約遂行【セックス】に対し、息子たち、仲間の漂泊者たち、結婚適齢期の娘たちが謝意を抱いている。コ、コケ、コケコッコー！アア、私にはあなたたちに対する義務がある！アア、あなたたちには私に対する義務がある！ソウ、我々は皆一体化して、ソウ、【セックスという】愛の食事の間に、サア、彼の毎週の気晴らしの相手である、ここにいるこの愛情あふれるトップレディーの、彼女だけがもっている目覚ましい権利に、そうすることを閣下が許して下さることを乞いながら、心を込めて感謝の意を表しよう。(585) その内容は来時期『ネプチューンズ・センティネル』や『トリトンヴィル・ライトウラー』に載り、全世界の至るところに行き渡るであろう。ホラ、彼がいる。コッ、コッコー、コッ、コッコー！どのようにしてあなたたちは私に対する義務を果たしてくれるのか、どのように私はあなたたちに対する義務を果たそうか。さらにつつましやかなランプ嬢とこぎれいなマットレス先生に感謝の気持ちを表そう。彼らは親切この上ないことに、それぞれ花嫁の付き添い役と、ソウ、もすそ持ち役を勤めてくれたのだ。そして、こうした場合に対して予防的な（お前の許しを得て、こうした言い方をするが)、着脱式の、交換可能な、相当に耐久性のあるゴム製品【コンドーム】にも最大級の誠意を示して、丁寧にありがとうと首を縦に下げることにしよう（そしてまた2人にも感謝しよう！健全な2人にも！)。そして彼がもっているマルサスの論文だけでなく、プロメテウスを思わせる避雷針【ペニス】にも感謝しよう。これは立派なやり方（哀れみが示される）で、まず最初に（行け！進め！）愛の稲妻を教えてくれたのだ（ありがたい。うまくやった！ただどうかこのことについては言及しないでくれ！)。代父たちよ、祖母たちよ、皆来れ。染み【セックスの痕跡】をつけたる者たちよ、杭打ち機【ペニス】操縦者たちよ、皆来れ、出産軽減装置【コンドーム】よ、体液満タン分轄器【コンドーム】よ、発射物防御装置【コンドーム】よ、防水装置【コンドーム】よ、深く彼に哀悼の意を表せ！生まれつき死を背負った、未だ生を保っているすべての者たちよ、未だ存在し、行動し、苦悩することを義務づけられた、言葉によって知を得るあらゆる者よ、至るところにいるあらゆる者よ、どうか彼女を思いやる心をもってくれ！その間、まだらに白んだ暁が、ダブリンのまどろんでいる夢見る者たちの目を覚まさせるために近づいている。

ハンフリーとアンナ、このほおひげを生やした美男と美女は、胎盤の基本的設計による、管状器官の吻合という形で今ずっと結合していた。あらゆる男の代表であるこの夫と、その女策士【である妻】は、足枷を切り離し、新たな欲望に向かおうと結合行為を繰り返し、そして分離という絆の中で結びあおうとする。アア、そうだ！アア、そうだ！お前の器官を引っ込めろ。もう終りだ。女陰は休んでいるのだ。こうした先例は、ほとんどの場合において、一生涯フェアブラザーズ・フィールド【ダブリンの1地区】の暗部となるように、ドネリーズ・オーチャード【ダブリンの1地区】における集団的禁欲の欠如の原因となる。図体の大きなHよ、お前の女陰に鍵をかけよ！アニーよ、お前の男根を吹き消せ！テーブルシートをしまい込め！お茶を入れていないではないか！すぐさまいつものリヴィアおばさんに戻るがよい、そのあと、ハンフリーも！

先ず面倒を引き起こしそうな隣人の心を乱すようなことはせずに、引き込んで休息をとれ。お前が自分にうんざりしているのと同じくらいに、自分にうんざりしている者がいる。そういう奴らは自分にうんざりさせておけ。(586) 休息に当てられるそうした時間に、喫煙や、つばを吐くことや、パブでのおしゃべりや、取っ組み合うことや、下品に女に言い寄ることや、淫らな話をすることなどは、固く禁じられている。裸になる時は前後を見よ。服を脱ぐ時には、プライバシーの権利が守ることの出来る最も厳格な内密性をもって脱げ。水溶液を暖炉の前や窓から放出してはならない。誰が使ったか分かるようなコンドームを、外してベッドの中に置いておくな。愚かな女とは言えないものの、メイドが彼女のおばあさんにこのことについて言い及び（お前にとって命取りになるぞ！)、おばあさんはあらゆる日常的なことをしゃべってしまう彼女の親友に（私のマデラインが何を見たと思う？）話してしまう。この無知なる人は、たいていの場合、かなり年を召した仲間全員にそれを広める（あの落ち目の紳士が、どんな風に、パパとママごっこをやったバーンとブッシュに出会ったか耳にしたことがある？)。この感傷的な川は定められたコースを辿っている（ディン、ダン、ドという鐘の音を加えながら)。あの洗濯女たちは（アア、この娼婦たちのことは、より一層私を混乱させる。つまり金髪のマッジ・エリスと茶髪のマグ・ディロンは)、その川を使っている。すべてに気をつけよ！ダブリンのあらゆる忌み嫌うべき卑劣漢どもは思い知らせてくれるだろう。もしこの詐欺師たちにお前が金を貸したならば、貸した金は請け戻しの権利を失うか、未払金としてお前のところに戻って来る、ということを。これは深刻なことである。このダブリンに存在するのはホテルや売春宿ではなく、ホームレスなのだから。

その通りだ、老人よ！

実際すべてはすぐに昔のまさにこの場所の、まさに昔のような状態になる。あの外出禁止令が出されている時、もしこの男が今のこのような時刻にこのような場所で、ヤドリギツグミを見ようと頭をもたげ、コーンウォール方言で歌を歌いながら――つまり、親愛なるこの男が、遠く向こうの【スイスの】東の端のアッペンツェルでたてられてい

るような高い声でそうしながら【ヨーデル】、ウッドの半ペンス【不良銅貨】やリヴィエラで使う金をかき集めるために（半分は3つの不良グループから20＋５＋２シリングプラスされて、また浮浪者から50＋５＋２シリングプラスされて戻ってくる）、立ち入り許可区域を歩き回っているなら――そしてまたこの男とは警官であり、この都市の住民である、パトロール中の、あたかも空腹でその場に崩れそうなサッカーソンのことだが――彼は叔父の家の１つ１つの窓から、貧弱ではない光が輝いているのを、確かに自分は見ていると思うであろう。さらに誤解されることを恐れずに言うならば、彼がもし一休みしようと、途中で両靴を横並びにして足を止めたならば、彼は流浪する水の流れの音以外、貯蔵所や貯蔵室からは何の音も耳にすることはないだろう。この水の音は現在のこと、すべてのことを彼に語る。つまり、ハムのこと、レバーのことすべてを。紅茶と、ハムとレバーがついたトーストのことを。さらにはママレードとバターを一緒に付けたトーストのことを。（587）最後にクウェーカー・オーツ社製の、彼のためにレバーを入れてあるオートミールのことを。大好物だ！4時だ。とうとう夜は過ぎ去った。タラ、それからニシンを見よ。さもなければ寒風が周りの木々の間を吹き抜ける様を見よ。

フン！俺たちは、モチ、俺たちがいたところから、ほんのかすかな光だけでそれを見たのだ。俺と俺の手下のジミー・ダーシーはね――そうだろ、ジミー――誰と一緒にいるところを見たかって？ フン！嘘じゃない、この大将【HCE】だよ。俺たち陽気な郵便配達人はこの大将におごってもらったのさ。まず、マウント・ブルワリーのビールを2、3杯、そしてキャドベリーのチョコレートと一緒に風味豊かなウッドバインの煙草をね。シアター・ロイヤルの道化のパントマイムでワイワイ騒ぎながら、ケンブリッジ・アームズの隅っこでテッドエイルズも飲ませてもらった。その間、俺たちは寝転んで、戴冠用宝玉【豆？】をけちな犬にやっていた。君たち、私はヒモだったのだとか、警察の陰気な犬だったのだとか、男やもめだったのだとか、そのように大将は言っていた。そして奴は白い帽子を手に下げ、ビールの泡を吹いて、祖国に敬意を払いながら、俺たちに明日の同士でいてほしい、長い生涯力になってほしい、とか言い、そしてなみなみと注がれた小マグを、奴が顔を向けた壁にかかっている神聖なる国王肖像へと向けた。（主よ、王を長く栄えさせよ！）奴の立場は、全体的に忌まわしい教会の記念祭が来ないうちに、向こうのサブマリン・バーの前で、この王様を打ちのめし、死刑にすることだ。でも奴は分け隔てのない態度を取るし、難民だし、争いのない時は友情を強固なものにしていた。――そうだろう？ ジミー――誰も俺の言うことなんか聞きゃしない。ハン！スイカズラ的哺乳類、このように奴のことを、ラッパ吹きのフレッド、ナタール【南アフリカの旧州】のメルモスからはるばるやってきた彼女、つまりここにいる俺の若き恋人フレッド・ワトキンス【フレッド・ワトキンスはオスカー・ワイルドの裁判の際、男娼役を頼まれたと偽証した】は敬意を表して、ペットのように呼んでいる。この時奴は、我が国を陣取ろうとしていたあの謎の帝国について質問していた。――どのようだったかね、ジミー――誰が【税務署で】申告するような煙草をもっているのかね、と。ヘン！あの２人、つまりウエイトレスたち、タンポポたち、チェルシーからのエルシーたち【歌の名】、花咲く２人の乙女たちと、シバムギ、アザミ、ノバラガラシという公園側にとって手に負えない奴ら【３人の兵士】とが出会った時の、フェニックス公園の管理人にとってのあの厄介事について言えば、霧にまぎれて公園に侵入するのを、規則に従ってやめるつもりは奴らにあったのかね、俺たちが出会ったことのある、奴にとってはサトウキビ畑で初めてお目にかかったに違いないあの一行には。そうではないのかね、カトリック教徒のジミー君よ。俺に背く奴は誰だ。ホン！それはカツラをかぶり、メープルシロップ味のガムを噛む彼奴だよ。あれは俺たちのおじいちゃんだ。ミスター髭ぼうぼうだ。教養ある市長だ。最も偉大な方々の中でも偉大な方というわけだ。かつてそんなに偉大だったと、イヤネ、この間のクリスマスの前に、においが漏れ出る神聖なる奴自身の口から密かに聞いたんだよ。何だって？ 俺たちの非国教徒のジミーさんよ。誰が酒屋の大将など恐れたりするか！ヤア、一物のノラン、（588）骨まで愛している可愛い俺だけの少年愛君よ、こいつは俺の茂みの中に触手を伸ばすのだ。このフレッドもそうだ。お前、馬鹿なまねはやめてくれよ！続けろよ、俺たちは世間で何もしないで暮らしてきた人間だけれども、と奴は言う。俺たちはちょっと、後ろにいるスイカズラ的哺乳類が戦うのをやめて、警戒心を弱めている時の【HCEが女子の排尿を覗いている時の】真剣な顔つきをこっそり見なくちゃいけない、とフレッドが言ったのさ。そしてここにいるジェームズシムによれば、俺たちのペットであるチビのあの娘が言うには、あの娘にしてみれば（飛んで行ってしまえ！ツグミのように！）、たった１人髪をカールした女の子と一緒に、奴の目の前で太ももをむき出しにして、忘れな草に音楽的な響きを響かせている【排尿】間、ひだふち飾りを草につけないようにスカートをたくし上げざるをえなかったし、これからもそうする、だそうだとよ。それはキャッドが戻ってきたあとのことだ。俺たちが思ったことだが、このキャッドはどうしようもない奴で、シェリーのコルク臭さを口に漂わせているところへ、フレッドがもっていたシャンディーとともに、２本のジョイ【ビール】と、うまいオロローソ【スペイン産のシェリー】を積み重ね体を暖めていた。そうだろう？ ジミー、俺の親しい陰鬱な兄弟よ。――誰のオロローソかだって？ アア、その通り俺のだよ！

王者たる山の陰にいて、ある見方に何も考えずに従う者たちよ、賛歌の対象になることが禁じられ、頭を頭巾で覆った我々１人１人と同類なる者よ、酒を飲みたまえ、こ

れまでどうしていたのか。陽気で悲しげな見張りであり男娼のミスターブラック・アトキンズと、二束三文の騎兵であるお前ら2人は、あの場にいたのか。雪はやんでいたか。月まで届くほどに積っていたか。あるいは雲光が大地を覆い、雷が琥珀色に走っていたか。ウンチが出そうだ！腹の中にたまっているのだ！ケチな量の雲が垣間見えたか。雨がパラパラと撒かれていたか。あの流れている川がしゃべることが出来たならば！トム・ティングルさん、教会の鐘が鳴るのを止めてよ！イシーは小さな谷で忙しくしているわ！背の低い物見櫓さん、あなたよ、あなたよ、ひどく謙遜しながら立ち小便しているのね！聞いて、間違いを犯した貴婦人さん、どうか！もちろん、あなたはそうしたのよ。聞いてよ、あなたは彼がいなくて寂しいんでしょう！もちろんここだけの話、誓って言うけれど、彼のような人はここには誰もいないわ。彼がトネリコの木だとすると私は女トネリコだわ、穏やかな魂をもった2人！これは悪漢のアランが金銭欲のアラーを愛して以来、あらゆる娘たちを不快にさせる出来事だ。悲しいことだ。樹皮を切り取られた木、いばらの木、ナナカマドの木、ミズキ科の木、風吹く庭園近くにある豆の木、更に多くの大木、こうした木々だけがそこで揺れ動いていた。震えて！森の中のあらゆる木が慎ましやかに震えていた。この時これらの木は最後の審判の日についての最新のニュースを聞いたのだ。

チッ！2本の可憐なヤドリギ【シェムとショーン】は、木にリボンで結ばれながら【保護者であるHCEに依存しながら】、解放されたる者としての自分たちの路を登っていった。そして、素晴らしいことに、彼らは自由だった！機知に富む若い妻にしてみれば、フードの下でウィンクすることで（589）、少年と同じように少女にも、メイポール登りに大いに興味を抱かせ、それ故、我らの緑の地にこの彼らの子供たちの子供たちが、男女半々に、いたずら好きのカップルとして点在した。そうしたわけで、子供の時のペンスは、大切にすれば大人の時のポンドとなるのだ。金持ちへと突っ走るための道とシラミに覆われたスラム街とが交差する世間では、多くの者がそうやって金を作ってきた。こうしたことのすべてを引き起こすはずの彼は、炎を放つ都市軌道【汽車】のように前向きに行動し、悲しみを紛らわすためのトレブル・スタウトを醸造したり、相手とギブアンドテイクしたり、3人の質屋とビリヤードをしたり、また土地をもっている我利我利亡者を利用することもあった。雑働きの女中は軽んじたが、財布は重視した。我々の大物商人である帝国主義者は。息子たちには遠くから軽んじられ、娘たちには脇でツンとされながら。このナガスクジラのフィンは！

どうやって彼、アイリッシュポンドに囲まれたクジラ取りは、積み上げ、見せびらかしたのか。グロートからギニーに至る預金残高の額を、更にあのような財産を、貨物列車の車両の中で彼がかすめとった煙草とともに。夜このジャッカル氏はうろつき回り、朝になると、物陰に隠れる犬のようにこっそりと帰った。没落する時はみすぼらしく、上昇する時は俗悪に、破産の見本となった。ダフィー氏の失敗と、上流階級と下層階級に対する営業の割合を10対5とするマッケンナの保険が話題に取り上げられる中、この件も大きな話題となった。これは世代から世代へと語り継がれていく話だ。上昇よりも没落の方が頻繁に。最初の没落について言えば、7日間の営業活動の気晴らしにと、彼の農場の荒れ地からさまよいだし、そのために地上の楽園を失ったのだ。その間に（そこは沼沢地であった）偶然にも、興奮で顔を炎のようにした若者と思われる者たちが、突然彼の私室の小窓から荒々しく無分別に押し入ってきた。見るところ彼らは、夜眠らずに活動する、ありとあらゆる格好をした6人の若者であった。彼らのあとすぐに、いつとははっきりしない時に、彼らよりもまさに10数世代若い男がたまたま忍び込み、保険も利かない程に財産をもっていった。この男は彼の5つの中庭と素晴らしい畜舎で狼藉を働き、単に控えの間に2本の羽毛を残したのみであった。更に考えてみると、次は4つのハリケーンが、彼の板ガラスの家の壁とスレートの屋根を木っ端みじんにしてしまった。そしてそれについての説明を彼の管理人はでっち上げた。その後3人の少年の押し込み強盗団がやって来て、彼の金を強奪した。後日同じ夕方に2人のあばずれ【の使用人】が彼の定めた規則を破って姿を消し、この不信心どもは懐かしい思い出になるようにと、彼に自分たちの借金を完済させた。そしてついに、彼の醸造所が爆発を起こし、最高品質のビールが氾濫し、（590）彼の大好きなヒマワリの種に至るまで、彼の穀物すべてをびしょ濡れにし、彼を没落させ、そして7王国のうち残っているものは、目がかすみ、気難しい、嘆き悲しむ、瀕死の、破産した彼だけだったのだ。

ししししし。正直な警察官の立ち会いの下での、じじ持参人保険金払いの件は確かに残念な結果となった。ロイズは、フェニックス保険会社から、彼が「踏みつぶされた小麦」になったが故に、彼についての誓約を受けることは二度となかった。そしてありがたいことに、彼の手続きを、ジョン・ミーズ市長の父親のあと回しにすることもなかった。少なくとも機械的にロイズは、ついには契約者である彼のことを、紫外線から赤外線までの真の7色の色合いの間で態度を変化させるカメレオンであると認識した。彼の最後の凱旋門をくぐろうとする試みがこれであった。彼の虹は変化を迫られた。二度と彩られることはなかった！時計氏よ、このことをどう思うか。君は素晴らしい褒賞を受けたのだ。私が約束の金を払うことを願いながら。

意見は一致した、ウェールズの諸君よ。この男の心は、天上においても地上においても、目立たないところまで狐の狡猾さにあふれている、という点で。しかし、ネエ、君たち、この男がはしごに対して抱いている揺るぎなき愛着のことを考えると、この仕事場のリーダーは誰だったのか。

民衆の集いでは歓呼を受け、別れの際は挨拶も受けていた。この積もり積もった積雲、王の中の王、巨人の中の巨人は！とどのつまり、見たところ、そのあと起こったことは何だったのか。というのも急ぎ過ぎ行く夜である現在は、朝に近づいているのだから【早く結論を出そう】。アレ、オヤ、ケッ、マア、あれは病気にかかった男だったのだ！かなり立派なあごの骨、これを見ると本当にあの男は北方系の男だ！でも、君たち、あそこにいるはったり男は、いまいましいことに、一時だけでも我々の尊敬するキリスト教徒の巨匠バイキング以上になれる人物なのだ。解決のための4つ目の位置。何と楽しいことか！水平線からの最も素晴らしい光景。最終的なタブロー。私は2人を見ている。我々は仮面のとれた男と女を見ている。先ずは砲手から！彼は今、昔から使ってきた筋肉を休めている。暁だ！彼の名前を保管しているスカーフが巻かれた首筋。卓越した男だ！ドラムを叩くようにやりたいことを激しくやったあとだ。野蛮な破壊者！体の芯に至るまで活動した。更に！体を丸くして！一方彼がふらつきながら突いていた女王蜂は、至福を祝し、彼女の道化役者のこの日の動きを感じている。1日がやってくる。騒音をたてて。

ブラボー。ブラボー、ブラボー。拍手。

（注）

『フィネガンズ・ウェイク』の原典は、James Joyce, *Finnegans Wake*（New York: Viking Press, 1947）を使用した。本文中の（ ）内の数字は、*Finnegans Wake* の原典のページを表す。【 】内の日本語は、該当個所の内容を筆者なりに解説したものである。（ ）内の日本語は、原典の（ ）内を訳したものである。ボールド体（太字）の箇所は、原文でイタリック体となっている箇所である。参考文献としては、以下の書を使用した。

1. Anderson, John. P. *Joyce's* Finnegans Wake: *The Curse of Kabbalah* vol. 8, Boca Raton: Universal Publishers, 2013.
2. Campbell, Joseph, and Henry Morton Robinson. *A Skeleton Key* to Finnegans Wake. rpt. New York: Viking Press, 1944.
3. Glasheen, Adaline. *A Third Census of* Finnegans Wake. Evanston:Northwestern University Press, 1963.
4. McHugh, Roland. *Annotations to* Finnegans Wake. Revised edn. Baltimore and London: Johns Hopkins University Press, 1991.
5. Mink, Louis O. *A* Finnegans Wake *Gazetteer*. Bloomington and London:Indiana University Press, 1978.
6. Rose, Danis, and John O'Hanlon. *Understanding* Finnegans Wake: *A Guideto the Narrative of James Joyce's Masterpiece*. New York: Garland Publishing, 1982.
7. Slepon, Raphael. *Glosses of* Finnegans Wake in *The* Finnegans Wake *Extensible Elucidation Treasury (FWEET)*, Website.
8. Slepon, Raphael, ed. *Fleet Search Engine* in *The* Finnegans Wake *Extensible Elucidation Treasury (FWEET)*, Website.
9. 宮田恭子訳、『抄訳、フィネガンズ・ウェイク』集英社、2004年
10. 柳瀬尚紀訳、『フィネガンズ・ウェイク』I、II、III、IV、河出書房新社、1991年

ジェイムズ・ジョイス『フィネガンズ・ウェイク』第3部第4章の概要
（555.1 ～590.30）

大島　由紀夫＊

（*東京海洋大学名誉教授）

要旨：　ジェイムズ・ジョイス著『フィネガンズ・ウェイク』の第3部第4章555ページ1行目から590ページ30行目までを訳出した。逐語的に訳した箇所もあるが、内容をくみとりながらその主意を表した箇所もあり、「概要」といった題名にした。訳出した本文では、幼児としてのシェムとショーンとイシー、および、彼らの親であるHCEとALPに対する4人の博士の観察模様と見解が記されてある。

キーワード：　フィネガンズ・ウェイク、第3部第4章、概要